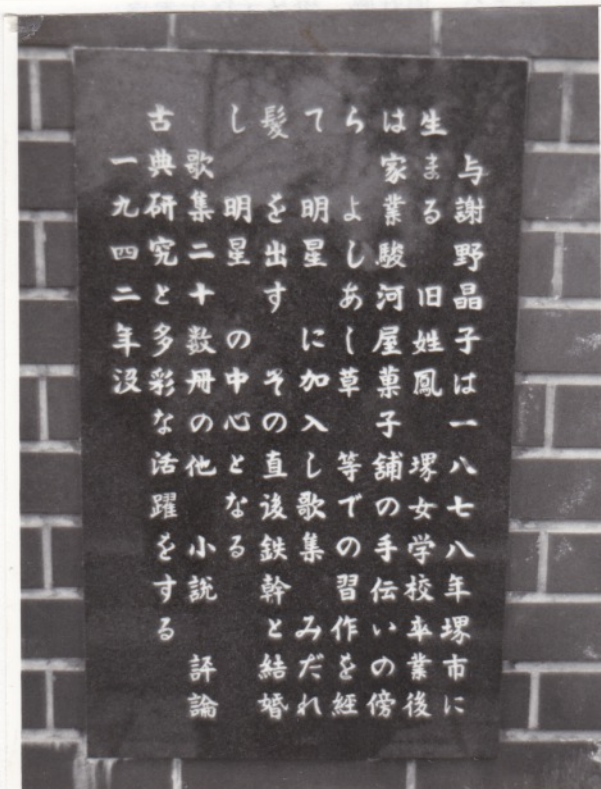
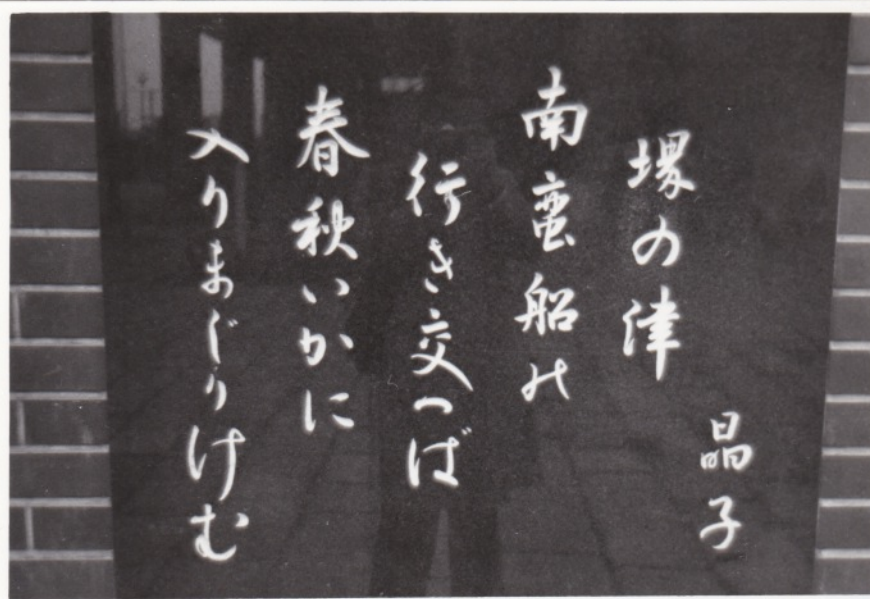




與謝野日明子歌碑

所在地 大阪府堺市大仙中町 大仙公園内 図書館より約百米

花の名は

一年草もある故に

忘れず

星は

忘れやすかり

日明子
瑞世書

碑陰

第37回全国植樹祭を記念し

草花に感謝をこめて

之を建碑す

昭和辛酉年十二月三十一日

大阪南部花商組合

堺生花地方卸売市場

発起人

十三名列記(略)

中池英揚

中池英揚



與謝野晶子歌碑

所在地 大阪府堺市堺区大仙中町 大仙公園内 市立図書館より約百米

花の名は
一年草もある故に
忘れず
星は
忘れやすかり

晶子
瑞世書

碑陰

第37回全国植樹祭を記念し
草花に感謝をこめて
之を建碑す

昭和六十一年十一月二十三日

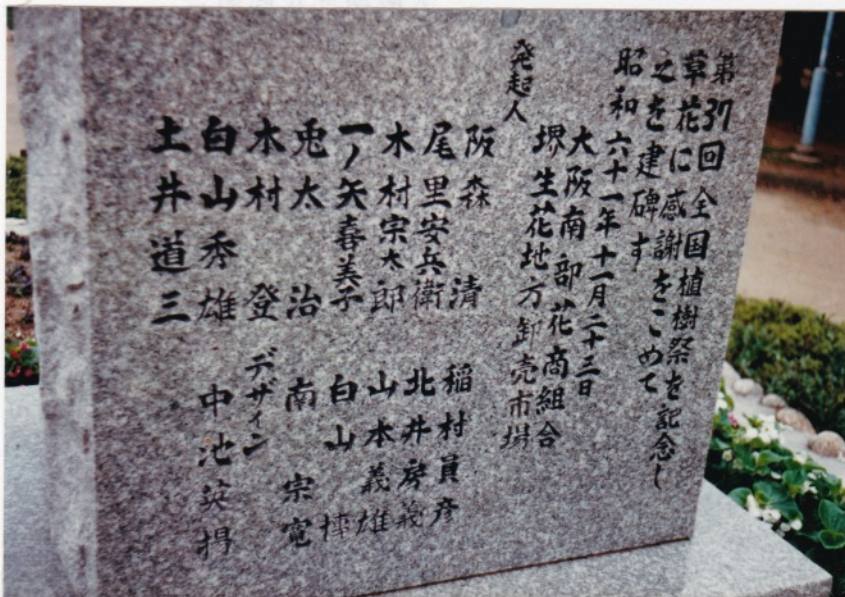
大阪南部花商組合
堺生花地方卸売市場

発起人

十三名列記（略）

デザイン

中池英揚



與謝野晶子詩碑

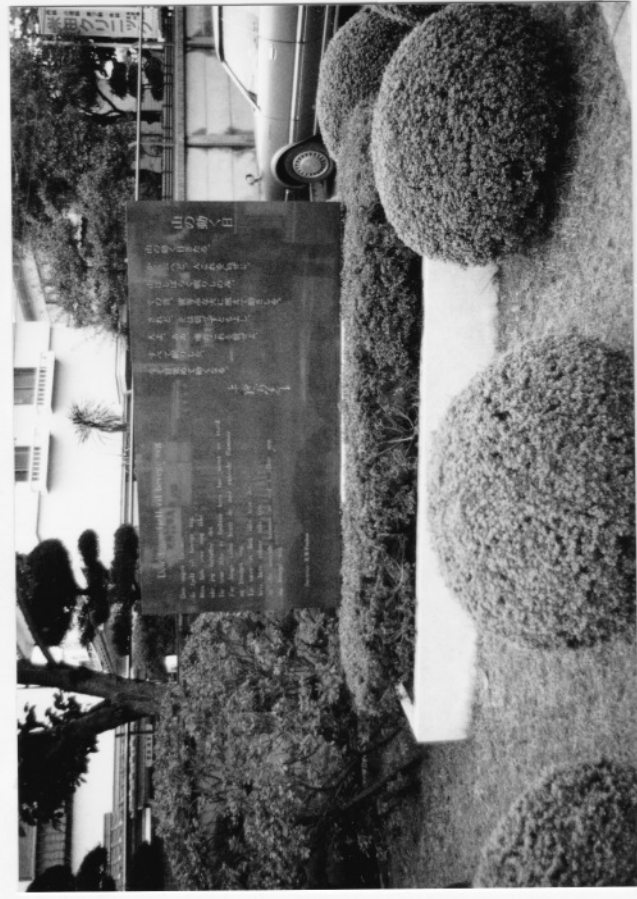
所在地 大阪府堺市浅香山町二丁目 堺女子短大正門内

山の動く日

山の動く日きたる、
かく云へど、人これを信ぜじ。
山はしばらく眠りしのみ、
その昔、彼等みな火に燃えて動きしを。
されど、そは信ぜずともよし、
人よ、ああ、唯だこれを信ぜよ、
すべて眠りし女、
今ぞ目覚めて動くなる。

与謝野晶子

ノルウェー語訳



碑陰

ノルウェー政府の女性閣僚 1986-

8 名 列 記 (略)

子の夢ノルウェーに実る”

1985年7月16日国連婦人年10年最終年世界婦人会議において、日本政府代表は、閣士の森人子野晶子の詩“山の動く日”を高くうたいあげ、全世界の女性に大きな感銘を与えた。この詩は1911年9月“青箱”の創刊号に掲載されたものである。
1986年5月9日ノルウェーに閣僚の44%を女性とする女性首班の閣内閣が誕生した。晶子の夢がノルウェーに実ったのである。ここにその女性閣僚の氏名を併記して、こうした内閣の誕生を実現した同国の卓抜した国民性に限りない尊敬と親愛とを捧げるとともに、ノルウェーの人達に学び、晶子が生涯求め続けた愛と自由と平等と、そして平和な世界が築きあげられることを願ひ詩碑を建立する。

1987年4月7日 晶子をうたう会

與謝野晶子詩碑

所在地 大阪府堺市堺区浅香山町1丁目 堺女子短大 正門内

山の動く日

山の動く日きたる、
かく云へど、人これを信ぜじ。
山はしばらく眠りしのみ、
その昔、彼等みな火に燃えて動きしを。
されど、そを信ぜずともよし。
人よ、ああ、唯だ此れを信ぜよ、
すべて眠りし女、
今ぞ目覚めて動くなる。

与謝野晶子



ノルウェー語訳 (横書き)

碑陰 (横書き)

ノルウェー政府の女性閣僚 1986 —

8 名 列 記 (略)

“晶子の夢 ノルウェーに実る”

1985年7月16日国連婦人年10年最終年世界婦人会議において、日本政府代表は、郷土の歌人与謝野晶子の詩“山の動く日”を高らかにうたいあげ、全世界／の女性に大きな感銘を与えた。この詩は1911年9月“青鞥”の創刊号に掲載されたものである。／

1986年5月9日ノルウェーに閣僚の44%を女性とする女性首班内閣が誕生した。晶子の夢がノルウェーに実ったのである。ここにその女性閣僚の氏名を併／記して、こうした内閣の誕生を実現した同国の卓抜した国民性に限りない尊敬と親愛とを捧げるとともに、ノルウェーの人達に学び、晶子が生涯求め続けた愛と自／由と平等と、そして平和な世界が築きあげられることを願い詩碑を建立する。／

1987年4月7日 晶子をうたう会

與謝野寛歌碑・與謝野晶子歌碑

所在地 兵庫県城崎郡城崎町湯島四五 一の湯の横

ひと夜のみ

ねて城の崎の湯の香にも

清くほのかに

染むころかな

寛

碑陰

文字なし

日没を

圓山川に

見てもなほ

夜明めきたり

城の崎これは

晶子

碑陰

文字なし

與謝野寛 晶子歌碑



與謝野寛歌碑・與謝野晶子歌碑

所在地 兵庫県豊岡市城崎町湯島 415 一の湯の横

ひと夜のみ

ねて城の崎の湯の香にも

清くほのかに

染むころかな

寛

碑陰

文字なし

日没を

圓山川に

見てもなほ

夜明めきたり

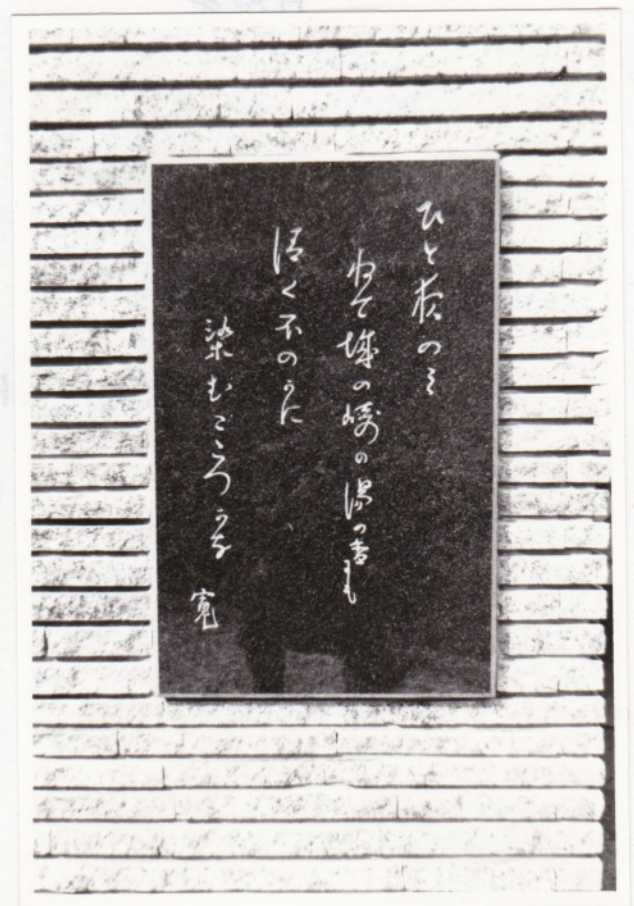
城の崎これは

晶子

碑陰

文字なし

與 謝 野 寛 晶 子 歌 碑



與謝野寛・晶子歌碑

所在地 兵庫県城崎郡香住町森公 大乘寺門前

羨まし 香住

の 寺の筆のあと

作者みづから

たのしめる

かな

寛

寛政の

應舉の作

御法をば

謹する如き

堂のうちかな

いみじけれ

みろくの世

まで

ほろぶ

なき

古き

巨匠の

丹青の

あと

碑陰

昭和廿八年四月建之

現住職 齋屋 長谷部 琢道

有志 四名(略)

世話人 嶋田 義夫

全 本多 貞治



與謝野寛・晶子歌碑

所在地 兵庫県美方郡香美町香住区森 860 大乘寺 門前

羨 ま し 香 住

の 寺 の 筆 の あと

晶 子

寛 政 の

作 者 み づ か ら

應 舉 の 作

が

た の し め る

御 法 を ば

か な

讃 ず る 如 き

堂 の う ち か な

寛

い み じ け れ

み ろ く の 世

ま で

ほ ろ ぶ

な き

古 き

巨 匠 の

丹 青 の

あ と

碑陰

昭和卅八年四月建之

現住職大僧正 長谷部琢道

有志 四名（略）

世話人 嶋田 義夫

全 本多 貞治



與謝野寛・前田純孝師弟歌碑

所在地 兵庫県美方郡浜坂町諸寄 基幹集落センター前

鶏のこゑ朗にひく春の日に

光のとけき桃の一村

翠溪

碑陰

昭和十九年五月

守安直孝建之

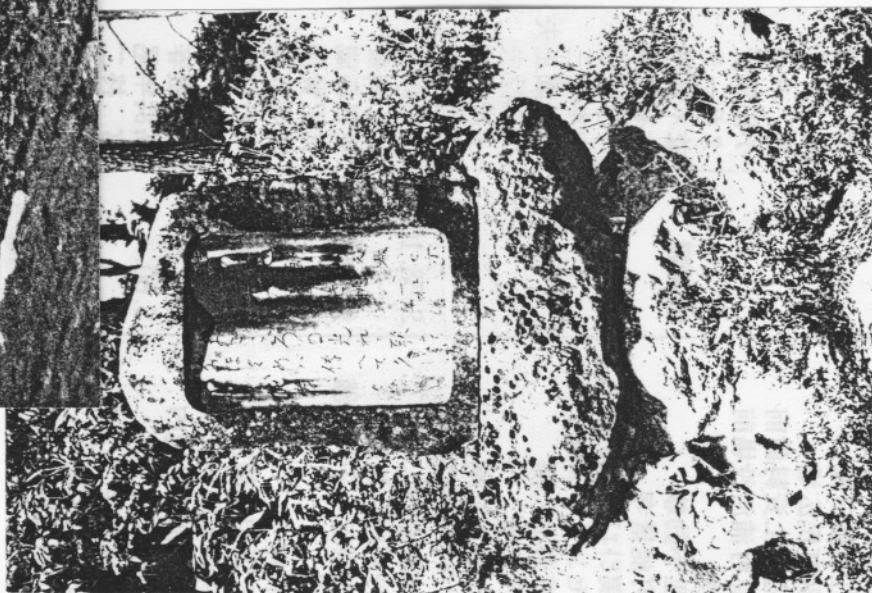
まごころの光れる歌を

なほよめば傳へて久し

わかき純孝

与謝野寛

(注) この碑は昔西浜中学校にあったもので現在そこは諸寄小学校となっており元の諸寄小学校の跡地がここである



與謝野寛・前田純孝師弟歌碑

所在地 兵庫県美方郡新温泉町諸寄 基幹集落センター前

鶏のこゑ朗にひゞく春の日に

光のとけき桃の一村

翠溪

まごころの光れる歌を

なほよめば傳へて久し

わかき純孝

与謝野寛

碑陰

昭和十九年五月

守安直孝建之

(注) この碑は昔西浜中学校にあったもので 現在そこは諸寄小学校と
なっており 元の諸寄小学校の跡地はここである

輿機實・前田謙幸補前・前田謙幸

前田謙幸の補前・前田謙幸の輿機實

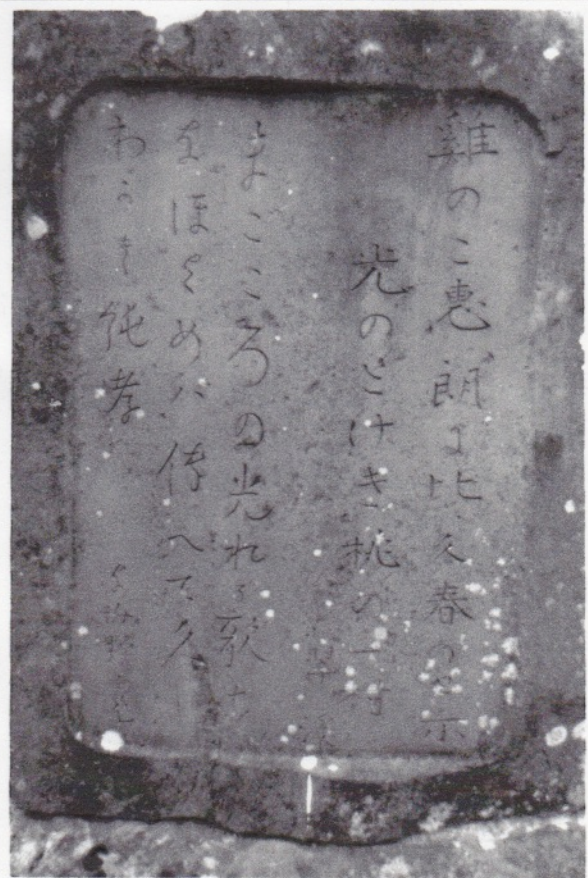
日の春

林一の

新翠

春の光





與謝野晶子歌碑

所在地 岡山県和気郡日生町寒河(きご) JR日生駅前広場

妻恋ひの

鹿海へこゆる話聞き

それかと見れば

低き鶴島

与謝野晶子

左側面

与謝野晶子先生之歌碑

昭和八年六月、与謝野鉄幹・晶子御夫妻は、正宗白鳥氏らと共に、日生諸島での舟遊びにに興じ、その美しい景観に心をうたれ、心情を数種の歌に託された。書は、与謝野晶子先生の御令孫、与謝野馨氏（衆議院科学技術委員長）によるものである。

平成二年五月吉日
日生町



與謝野晶子歌碑

所在地 岡山県備前市日生町寒河(そうご) JR日生駅前広場

親子の鹿の像

台座

国立公園ひなせ諸島 (横書き)

(この下に縦書きで次の歌が書かれている)

妻恋ひの

鹿海こゆる話聞き

それかと思れば

低き鶴島

与謝野晶子

左側面

与謝野晶子先生之歌碑

昭和八年六月、与謝野鉄幹・晶子御夫婦は、
正宗白鳥氏らと共に、日生諸島での舟遊びに興
じ、その美しい景観に心をうたれ、心情を数首
の歌に託された。

書は、与謝野晶子先生の御令孫、与謝野馨氏
(衆議院科学技術委員長) によるものである。

平成二年五月吉日

日 生 町



国立公園 伊豆諸島

専心ひの

鹿海中の詠聞き

水かき見小は

修
鶴島

上謝野晶子

与謝野晶子先生之歌碑

昭和八年六月、与謝野鉄幹・晶子御夫妻は、正宗白鳥氏らと共に、日生諸島での舟遊びに興じ、その美しい景観に心をうたれ、心情を数種の歌に託された。

書は、与謝野晶子先生の御令孫、与謝野馨氏（衆議院科学技術委員長）によるものである。

書は、与謝野晶子先生の御令孫、与謝野馨氏

與謝野晶子歌碑

所在地 岡山県津山市上河原三 美作学園 玄関前

うつくしき五郡の
山に護られて
學ぶ少女は
いみじ
かりけれ

晶子

碑陰

昭和八年七月三日 与謝野寛
晶子夫妻が来校された
晶子女史は講演の後 運動場
に歩をはこび美作の山々の景観
を賞し 本学園に学ぶ者の幸福
を思い賛歌を即詠された
美作学園創設五十周年に当り
ここに職員 学生 生徒 相図
りこれを彫録して記念とする
昭和四十年文化の日 杉山卓識



與謝野晶子歌碑

所在地 岡山県津山市上河原 32 美作学園 玄関前

うつくしき五郡の
山に護られて

學ぶ少女は
いみじ

かりけれ

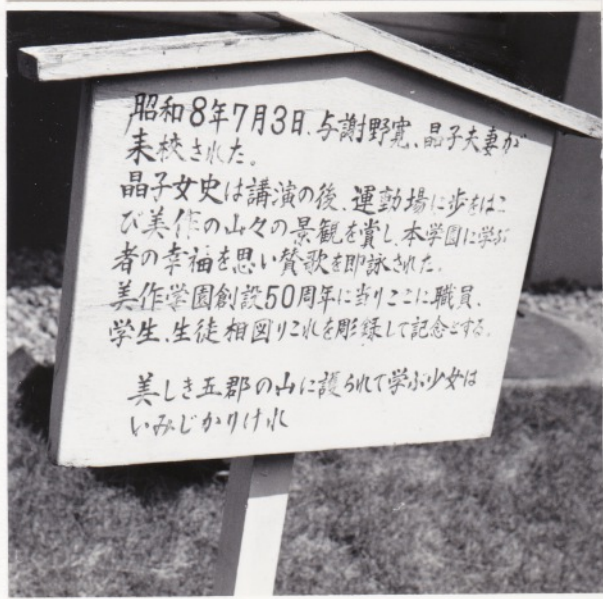
晶子

碑陰

昭和八年七月三日 与謝野寛
晶子夫妻が来校された

晶子女史は講演の後 運動場
に歩をはこび美作の山々の景観
を賞し 本学園に学ぶ者の幸福
を思い賛歌を即詠された

美作学園創立五十周年に当り
ここに職員 学生 生徒 相図
りこれを彫録して記念とする
昭和四十年文化の日 杉山卓識

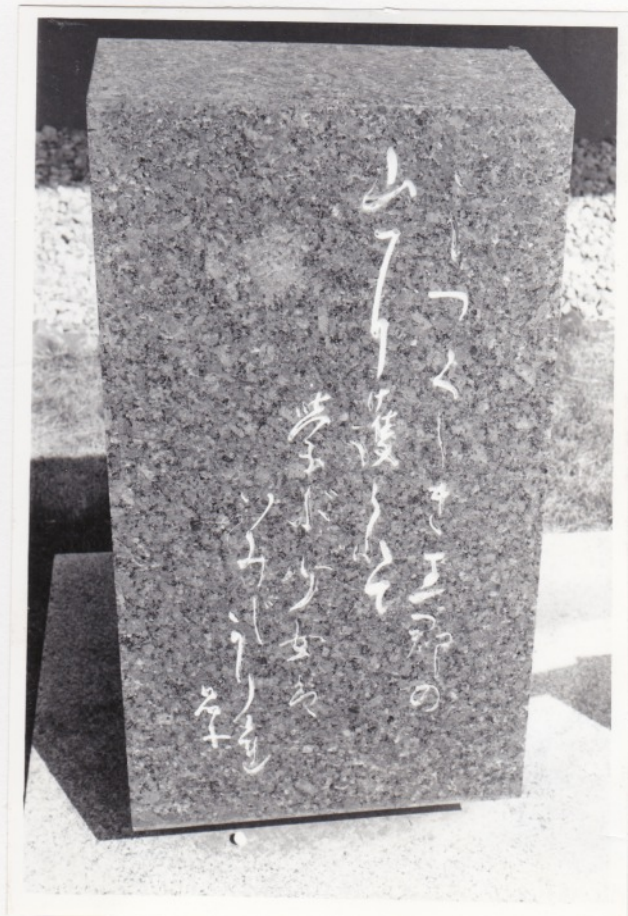


千晶

昭和

昭和八年七月三日 与謝野寛

晶子女史が来校された



與謝野寛・昴子歌碑

所在地 鳥取県東伯郡三朝町 三朝温泉 キーリ―広場

水と灯の作る夜色の めてたさを

見しは都と溪あひの湯場 昴子

三朝湯のゆたかなるかな ころもく

この新しく湧くに学はん 寛

碑陰

昭和五十六年三月
三朝町長之建



與謝野寛・晶子歌碑

所在地 鳥取県東伯郡三朝町 三朝温泉 キュリー広場

水と灯の作る夜色のめてたさを

見しは都と溪あひの湯場 晶子

三朝湯のゆたかなるかなこゝろさへ

この新しく湧くに学はん 寛

碑陰

昭和五十六年三月

三朝町長 之建



與謝野日明子歌碑

所在地 鳥取県東伯郡三朝町三朝温泉 金比羅さん 昇り口

日明子

碑陰

川波か

昭和五十六年三月

三朝町長 之建

雨の裾をは

白く

する

三朝

の

橋を

こぐて

来しかな



與謝野晶子歌碑

所在地 鳥取県東伯郡三朝町三朝温泉 金比羅さん 昇り口

晶子

川波か

雨の裾をは

白く

三朝

する

の

橋を

こへて

来しかな

碑陰

昭和五十六年三月

三朝町長 之建

輦 燭 千 晶 裡 備 興



具三半六十正成剛



うのもどき
←

與謝野寛歌碑

所在地 山口県徳山市 太華山

彼のあたり

二十の前の

我を知る

蛇島仙しま

黒髪 の 島

右 與謝野寛先生の 一首を

千九百六十二年 首夏

門下末流

佐藤春夫

碑陰

文字なし



與謝野寛歌碑

所在地 山口県徳山市 太華山 山頂

彼のあたり

二十の前の

我を知る

さ しま
蛇島仙しま

黒髪の島

右 與謝野寛先生の一首を

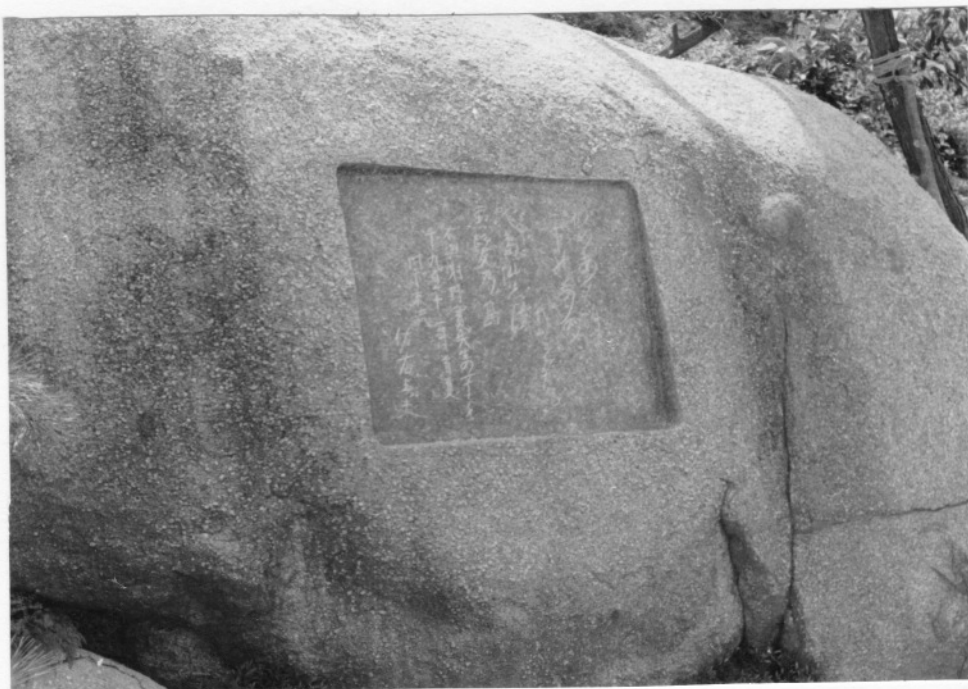
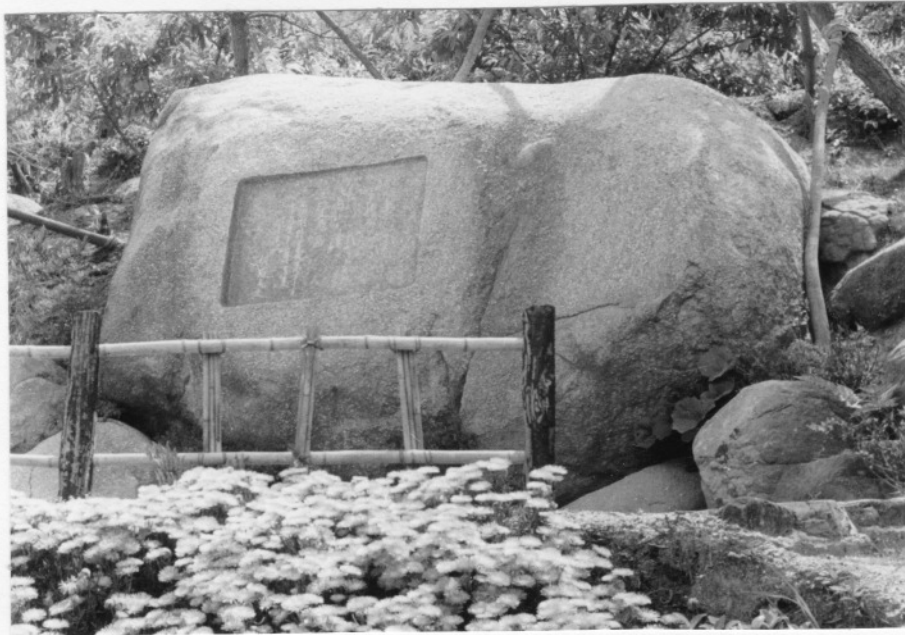
千九百六十三年 首 夏

門下末流

佐藤春夫

碑陰

文字なし



與謝野寛歌碑

所在地 香川県善通寺市善通寺三三二 善通寺 遍照閣前

善通寺秋の夕に

わかたつも

大師若くてふみ

ませる土

鉄幹の
ふた

碑陰

高松市

光宗道子謹書

善通寺市仙遊町

藤井吉明寄贈



與謝野寛歌碑

所在地 香川県善通寺市善通寺 3-3-1 善通寺 遍照閣前

善通寺秋の夕に

わかたつも

大師若くてふみ

ませる土

鉄幹の
うた

碑陰

高松市

光宗道子謹書

善通寺市仙遊町

藤井吉明寄贈





與謝野日明子歌碑

所在地 愛媛県松山市石手三九三 石手寺境内 鐘樓前

千手観音菩薩
聖観世音菩薩
馬頭観世音菩薩
十一面観世音菩薩
准胝観世音菩薩
如意輪観世音菩薩

伊予の秋

石手の寺の

香盤に海のいろ

して立つ煙かな

日明子

左側面

石手寺や
平和観音
香の煙おはします
御山めぐりて

願祈 五夫名列記(略)

裏面

観音様にすがり幸な長き人生をあゆみ阿弥陀様の御来迎を祈り人の世の平和を祈ります

観月や

幾千代までも

大和幸ち願ふ

八二歳

菊花の供養

拓盛

右側面

昭和五年十月吉日建之

建立者 松山市室町 日野盛市

日野義春

世話人 四名列記(略)



與謝野晶子歌碑

所在地 愛媛県松山市石手 2-9-21 石手寺境内 鐘楼前

千手観音菩薩
聖観世音菩薩
馬頭観世音菩薩
十一面観世音菩薩
准胝観世音菩薩
如意輪観世音菩薩

(以上が扇面状に縦書きで書かれており 下の台座にも次の歌が縦書きで書かれている)

伊予の秋

石手の寺の

香盤に海のいろ

して立つ煙かな

晶子

裏面

観音様にすがり幸な長き人生をあゆみ阿弥陀
様の御来迎を祈り人の世の平和を祈ります

観月や

幾千代までも

幸ち願ふ 八十一歳

大和名出志古 拓盛

菊花の供養

左側面

石手寺や

平和観音 祈

おはします 願 五十六名列記

香の煙は 者 (略)

御山めぐりて

右側面

昭和五十年十一月吉日建之

建立者 松山市室町 日野盛市

日野義春

世話人 四名列記 (略)

輿地備考 香盤子 伊予



伊予の香盤子



香盤子

(前) 運慶寺 大蔵院

與謝野晶子歌碑

所在地 愛媛県伊予三島市村松町二画〇一 佐々木二六三庭園

四坂なる銅の煙に

碑陰
文字なし

おとめらや

伊豫の二六の

すゑもの、かま

晶子

所在地 愛媛県川之江市 川之江城址 城山公園内

晶子

姫ヶ嶽

副碑
與謝野晶子歌碑

海に身投くる

副碑左側面
昭和五十四年三月
川之江文化協会

馬

して

入りぬ

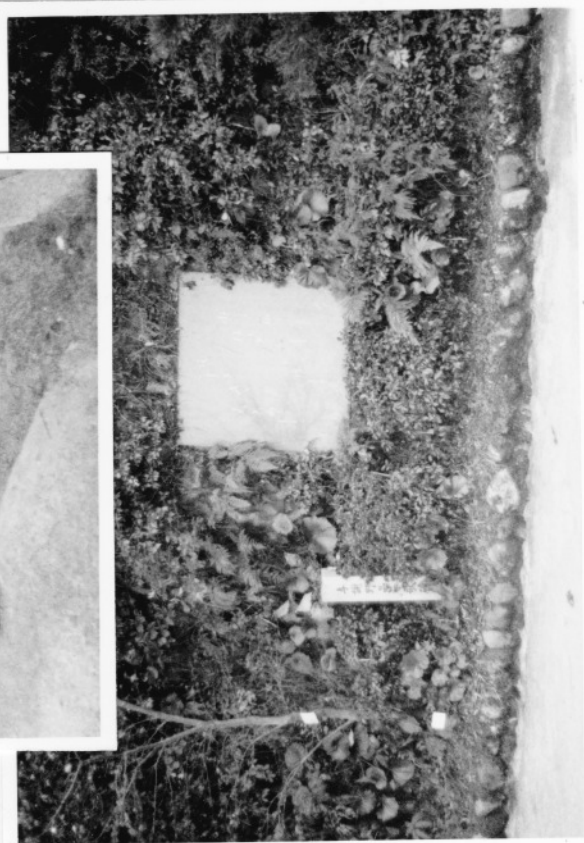
大名の

子は

いや

は

ても



與謝野晶子歌碑

所在地 愛媛県四国中央市村松町 340-1 佐々木二六（二六焼）氏宅前

四坂なる銅の

煙に

おとめらや

伊豫の二六の

すゑものゝかま

晶子

碑陰

文字なし

所在地 愛媛県四国中央市川之江 川之江城址 城山公園内

姫ヶ嶽

晶子

海に身投ぐる

いや

副碑 與謝野晶子歌碑

馬

は

副碑左側面

して

ても

昭和五十四年三月

入りぬ

川之江文化協会

大名の

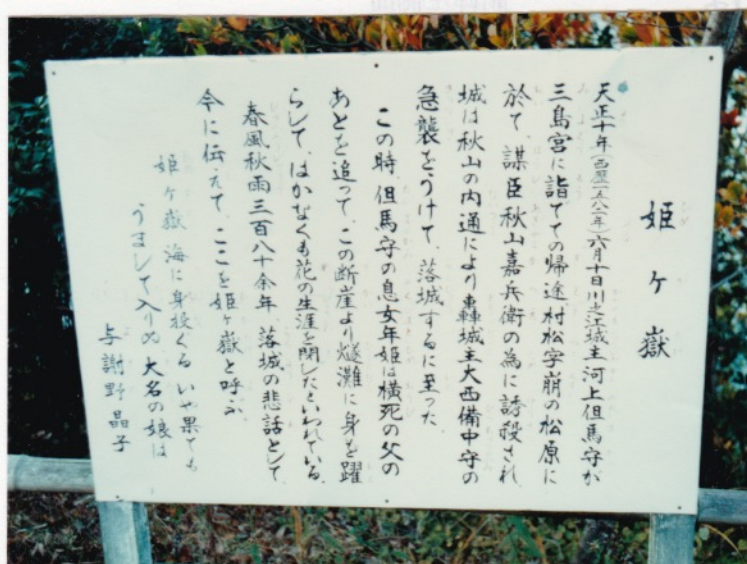
子は



乃木川中央公園内松原 松原



の松大



與謝野寛・晶子歌碑

所在地 愛媛県川之江市川之江町三美臺 川之江八幡神社境内

燧灘はるかに秋の沖はれて水脈わかれたり紺青と白

寛

川の江の港の成りぬ波風にまでも破れし

晶子

百船の夢

碑陰

文字なし

所在地 愛媛県川之江市馬場二区 八将神社参道脇

空を見て峠を行けばおもふかな

金生川もその空に鳴る

寛

うつくしき秋の木の葉のこころちする

伊豫の小嶋の浮ぶ海かな

晶子

碑陰

昭和六年(一九三二)
與謝野寛・晶子夫妻が当地来訪のとき詠まれた歌を
記念して茲に誌す

篠原敏夫

平成二年(一九九〇) 妻満枝



與謝野寛・晶子歌碑

所在地 愛媛県四国中央市川之江町 2567 塩谷 川之江八幡神社境内

寛

燧灘はるかに秋の沖はれて水脈わかれたり紺青と白

川の江の港の成りぬ波風にまたも破れし 晶子

百船の夢

碑陰

文字なし

所在地 愛媛県四国中央市川之江町馬場二区 八将神社参道

空を見て峠を行けばおもふかな

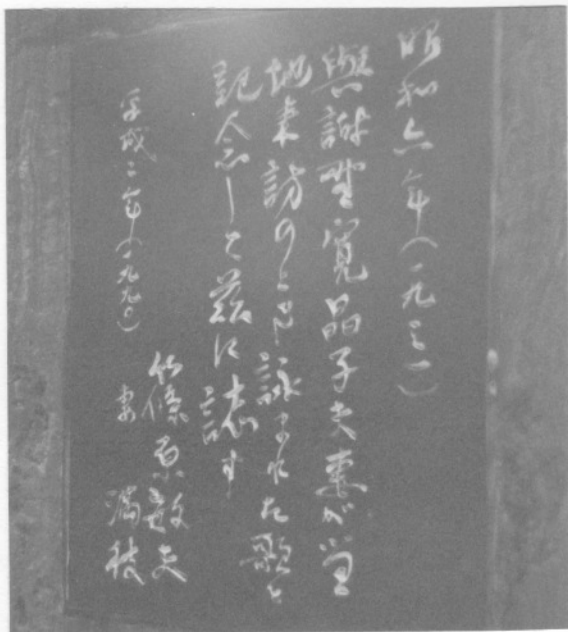
金生川もその空に鳴る

寛

うつくしき秋の木の葉のこゝちする

伊豫の小嶋の浮ぶ海かな

晶子



碑陰

昭和六年(一九三一)

與謝野寛晶子夫妻が当地来訪のとき詠まれた歌を記念して茲に誌す

平成二年(一九九〇) 篠原敏夫

妻 満枝



與謝野寛・日明子歌碑

所在地 大分県玖珠郡九重町 瀬の本高原「九重スサキド」裏側

大いなる師に

(反対面)

ちかつくと似たる

かな

久住の山に

引かるる

心

寛

久住山阿蘇の

さかひをする

谷の

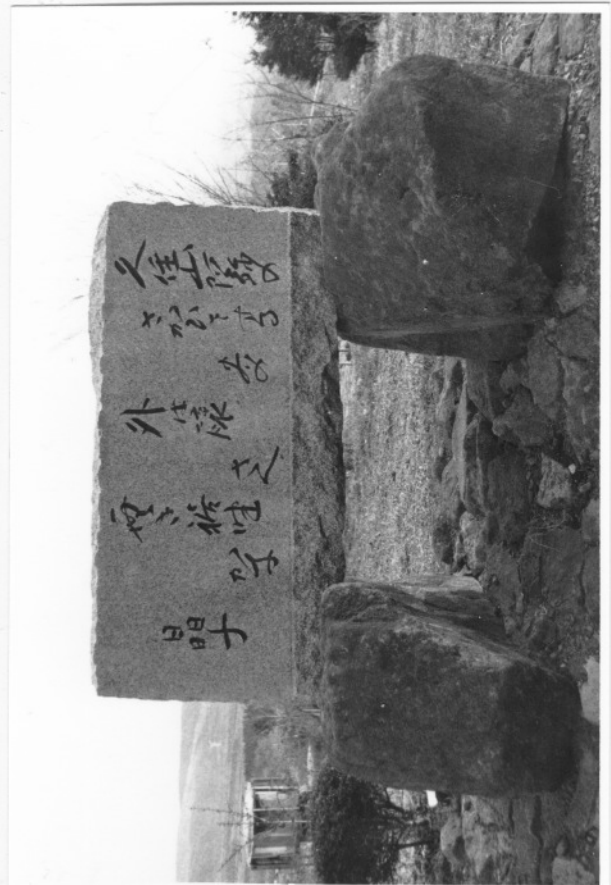
外は襷

さへ

無き裾野

かな

日明子



與謝野寛・晶子歌碑

所在地 大分県玖珠郡九重町 瀬の本高原「九重スカイランド」裏側

大いなる師に

ちかつくと似たる

かな

久住の山に

引かゝるる

心

寛

(反対側)

久住山阿蘇の

さかひをする

谷の

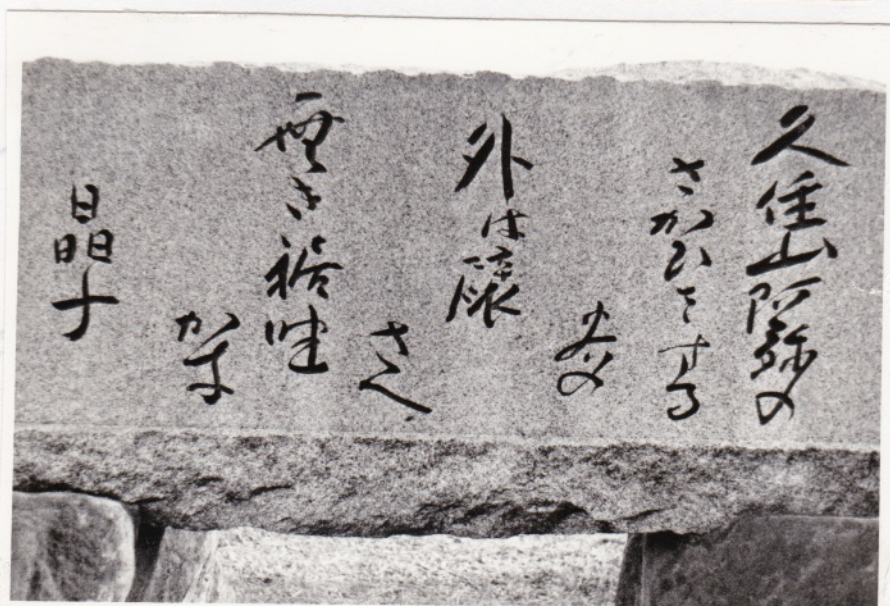
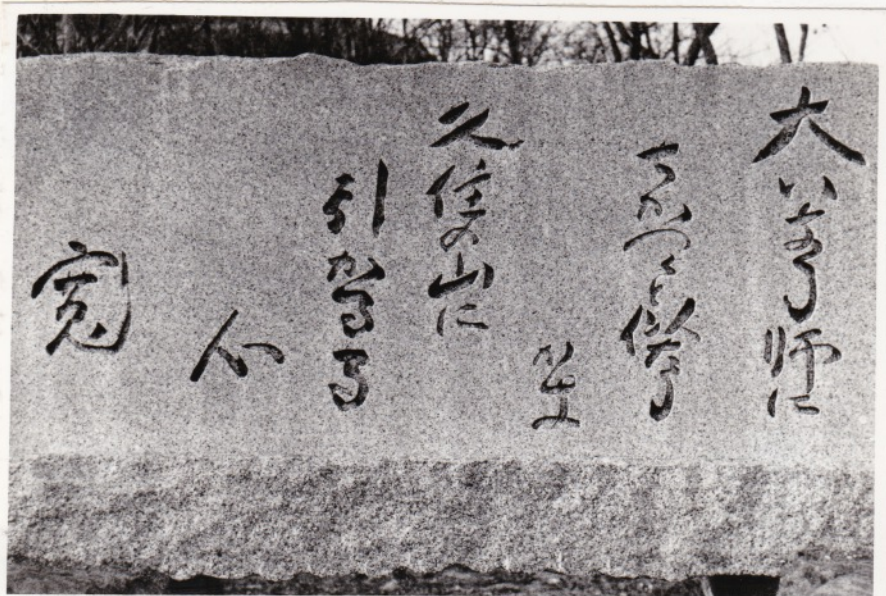
外は襷

さへ

無き裾野

かな

晶子



與謝野晶子歌碑

所在地 大分県直入郡久住町平木 県畜産試験場入口 樹の下

久住よし

四百の齡

ある檻も

門守とする

牛馬の家

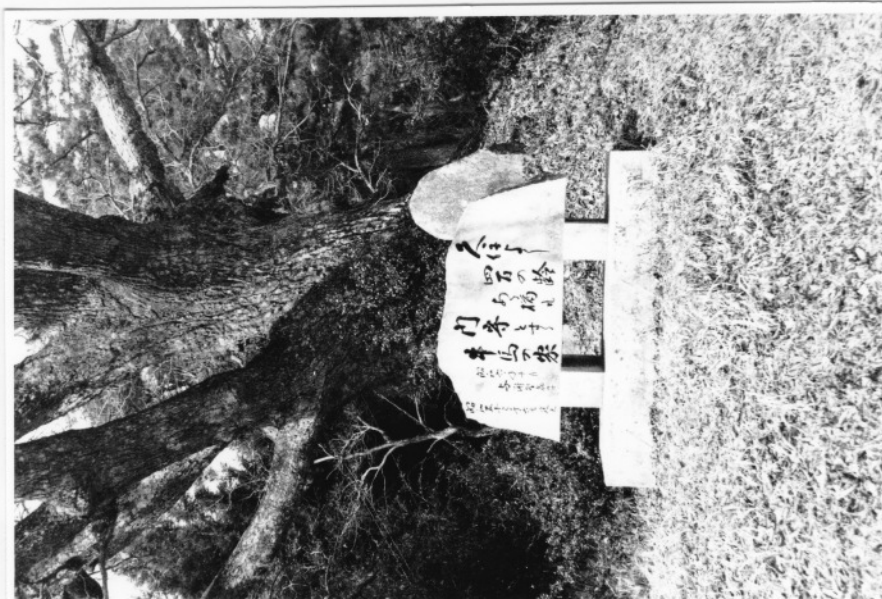
昭和六年十月

与謝野晶子

昭和五十二年六月 建之

碑陰

文字なし



與謝野晶子歌碑

所在地 大分県竹田市久住町平木 県畜産試験場入口 櫓の木の下

久 住 よ し

四 百 の 齡

あ る 櫓 も

門 守 と す る

牛 馬 の 家

昭和六年十月

与謝野晶子

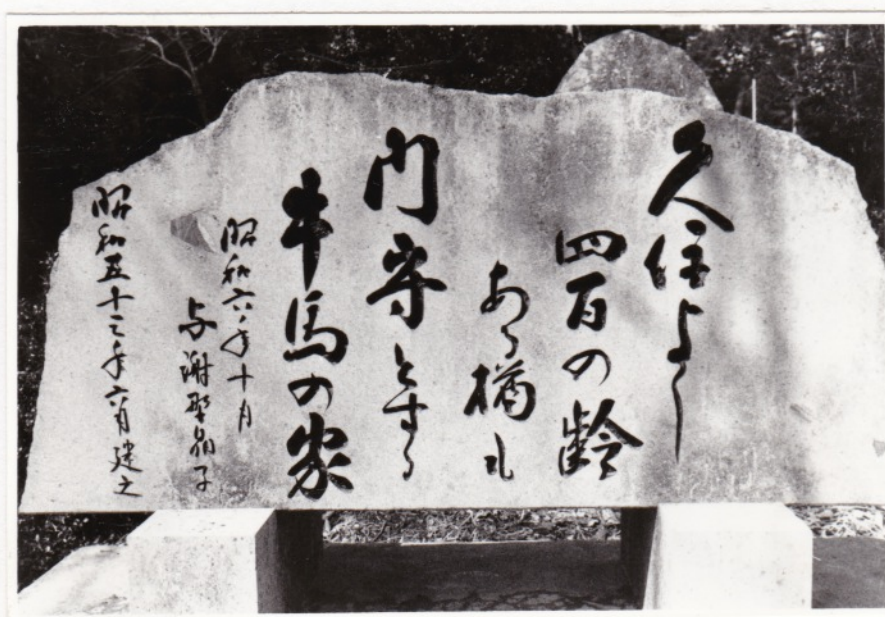
昭和五十三年六月 建之

碑陰

文字なし

與備理晶千輝軒

千の木の樹 口人譽郷地高番界



與謝野昌明子歌碑

所在地 大分県直入郡直入町長湯 権現山公園内(小学校裏)

湯の原の兩山に
満ちその雨の錆
の如くに浮ぶ霧
かな。

与謝野昌明子

碑陰

文字なし

所在地 大分県直入郡直入町長湯 権現山公園内(小学校裏)

蛾となりてやがて
はここへ飛びて来
ん 芹川に添ふ小
きともし火

与謝野昌明子

碑陰

文字なし



與謝野晶子歌碑

所在地 大分県竹田市直入町長湯 権現山公園内（小学校裏）

湯の原の雨山に
満ちその雨の錆
の如くに浮ぶ霧
かな

与謝野晶子

碑陰

文字なし

所在地 大分県竹田市直入町長湯 権現山公園内（小学校裏）

蛾となりてやがて
はここへ飛びて来
ん 芹川に添ふ小
きともし火

与謝野晶子

碑陰

文字なし



九住山
↓

大船山
↓

黒岳
↓



碑のところがより見た大船連山 ←



與謝野寛歌碑

所在地 大分県直入郡直入町長湯 権現山公園内(小学校裏)

芦川の湯の宿に
来て灯のもとに
秋を覚ゆる山
の夕立

与謝野鉄幹

碑陰
文字なし

與謝野晶子歌碑

所在地 福岡県福岡市城南区片江南町四四二上 文学碑公園内

やは
はたの
あつき
血潮

そひし
からすや
道を

ふれも
見て

碑陰
文字なし

子



與謝野寛歌碑

所在地 大分県竹田市直入町長湯 権現山公園内（小学校裏）

芹川の湯の宿に
来て灯のもとに
秋を覚ゆる山
の夕立

与謝野鉄幹

碑陰

文字なし

與謝野晶子歌碑

所在地 福岡県福岡市城南区片江南町 4・41・12 文学碑公園内

やは
はたの
あつき
血潮
さひしに
からすや
ふれも
道を 見て
説く
君 晶子

碑陰

文字なし



奥

洞

来

来



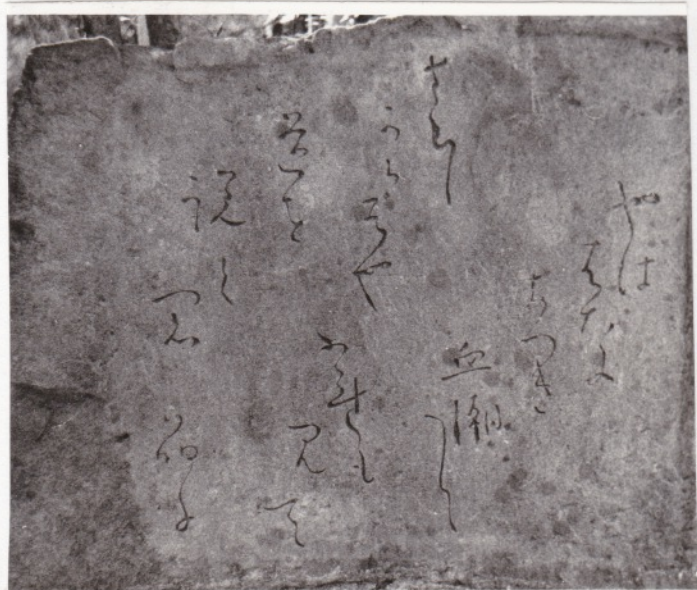
→九重連山



の式刊

香ぐ

贈 通



フ ァ イ ル 72

与謝野寛・晶子(長崎県~鹿児島県)

吉 井 勇

五足の靴記念碑

所在地 長崎県長崎市樺島町 西日本新聞社 向い側

五足の靴碑

明治四十年夏 興謝野鉄幹 木下李太郎

吉井勇 北原白秋 平野萬里が この地上野屋

旅館に宿り帰郷後紀行文「五足の靴」を二六新

報に発表わが国南蛮趣味文学の先驅をなした

右側面

昭和四十五年四月一日設立

長崎市長 諸谷義武

左側面

西日本新聞長崎市専売店会寄贈



五足の靴記念碑

所在地 長崎県長崎市樺島町 西日本新聞社 向い側

五足の靴碑

(この下にやはり縦書きで次の文章がある)

明治四十年夏 與謝野鉄幹 木下杢太郎
吉井勇 北原白秋 平野萬里が この地上野屋
旅館に宿り帰郷後紀行文「五足の靴」を二六新
報に発表わが国南蛮趣味文学の先驅をなした

右側面

昭和四十五年四月一日設立

長崎市長 諸 谷 義 武

左側面

西日本新聞長崎市専売店会寄贈





與謝野寛詩・五足の靴文学碑

所在地 長崎県佐世保市下京町 夜店通り

五 足 の 靴 文 学 碑 (横書き)

(この下に次の文 及び詩が縦書きで書かれている)

明治四十年夏、与謝野寛、平野万里、吉井勇、木下杢太郎、北原白秋の五人の歌詩人が九州旅行の途中、佐世保を訪れた。その旅行記が「五足の靴」である。五人は佐世保で一泊し、この地に夜店がたち並ぶ様子を見て、与謝野寛（鉄幹）が即興詩を口吟した。

ランプの明り、カンテラの
灯かげ煙れるせりうりの
夜店の中に、一段と
聲はりあぐる瀬戸物屋。

わが賣る品のあたひをば
恥づる色なく、おのれから
下げて手を打つ、あはれなる
佐世保の街の瀬戸物屋。

「早来い、早来い、品物は
みんな廉か。」といそがしく
左のふときてのひらを
握りこぶしに打叩く。

更にあはれむ。汝が妻は
死にか別れし、みそかをと
はたや逃げたる。三十の
男ざかりのやもめずみ。

「この花いけは有田焼、
買はっせ、買はっせ、そら貳圓
廉か。」と呼べど、群集は
冷然として繞り見る。

後を見れば、竹たてて
夜露に吊すハンモック
眠りてありぬ、青白き
五才ばかりの娘の児。

「貳圓、壹圓五十錢、
七十五錢、四十錢、
ああ、負けましょ、二十錢。」
赤き裸を汗ばしる。

明治四十年八月五日
与謝野鉄幹

碑陰（横書き）

佐世保ライオンズクラブ
結成20周年記念
1983年3月建立

與謝野寛歌碑・與謝野晶子歌碑

所在地 熊本県阿蘇郡阿蘇町内牧(翌一) 蘇山郷(旅館) 庭内

霧の色ひとときは黒し

かの空にありて煙るか

阿蘇の頂

寛

碑陰

文字なし

晶子

うす霧や

大観峰

に

朝

がほ

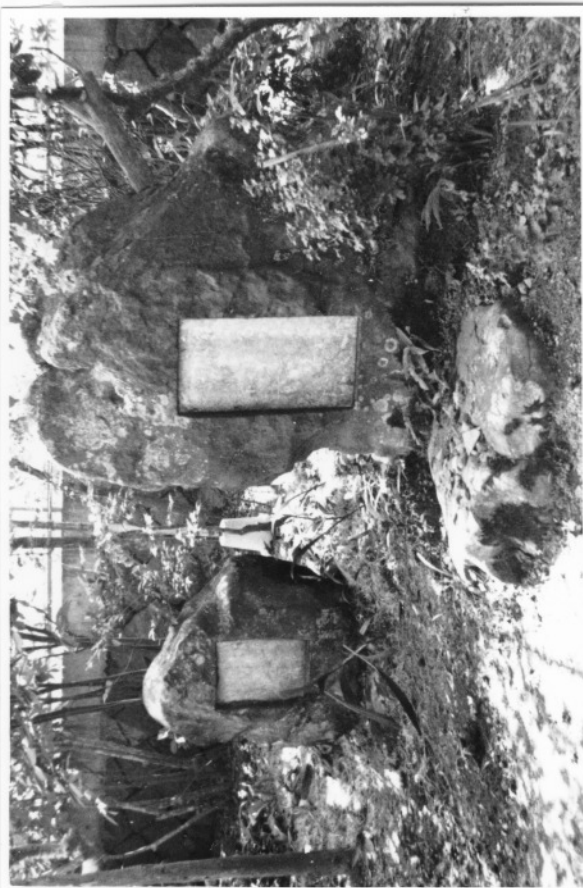
そひて

のそく

阿蘇の山荘

碑陰

文字なし



與謝野寛歌碑・與謝野晶子歌碑

所在地 熊本県阿蘇市阿蘇町内牧 145-1 「蘇山郷」(旅館) 庭内

霧の色ひときは黒し

かの空にありて煙るか

阿蘇の頂

寛

碑陰

文字なし

晶子

うす霧や

大観峰

に

より

朝

そひて

がほ

のさく

阿蘇の山荘

碑陰

文字なし

輿地實記・輿地勝覽



石標



與謝野寛・晶子歌碑

所在地 熊本県天草郡松島町四橋際 「松島苑」裏「天草ベルゼンター」前

昭和八年八月
与謝野先生夫妻
天草詠草の中より

天草の

島のあひだの夕焼に

舟もその身も

染みて人釣る

与 謝 野 寛

天草の

松島三に浮きなり

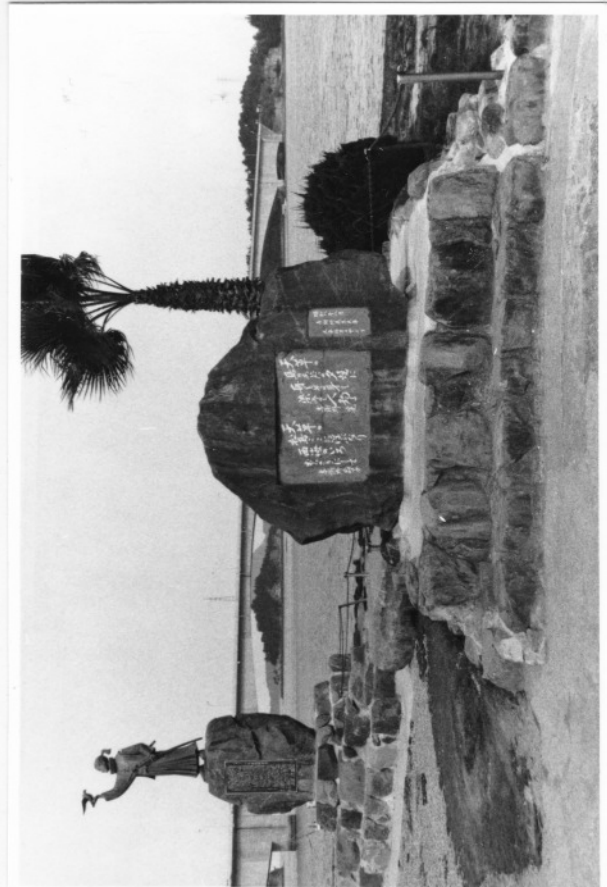
西海のいろ

むらさきにして

与 謝 野 晶 子

碑陰

昭和四十九年六月 建之
天草ベルゼンター株式会社



與謝野寛・晶子歌碑

所在地 熊本県上天草市松島町 四号橋際 「松島苑」裏 「天草パ－ルセンター」前

昭和八年八月
与謝野先生夫妻
天草詠草の中より

天 草 の

島 の あ ひ だ の 夕 焼 に

舟 も そ の 身 も

染 み て 人 釣 る

与 謝 野 寛

天 草 の

松 島 こ こ に 浮 ぶ な り

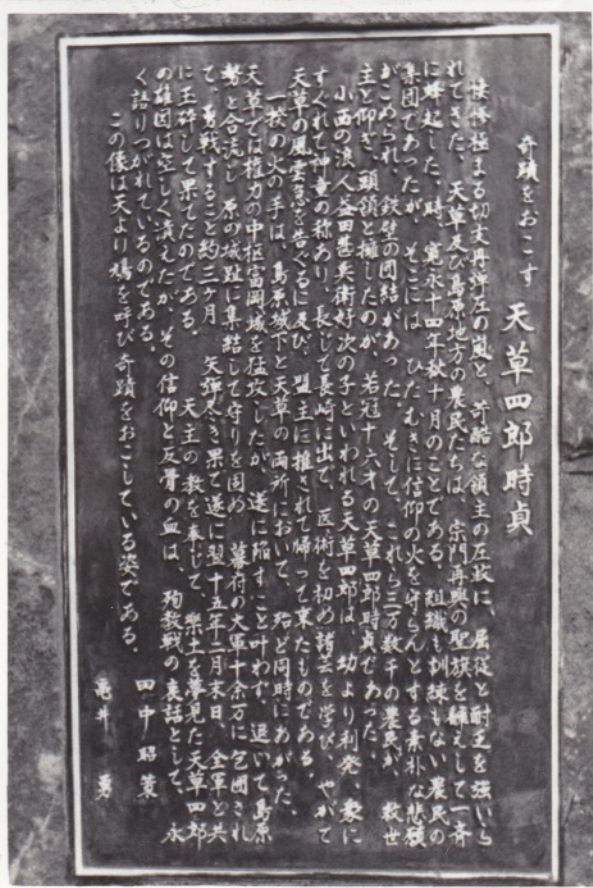
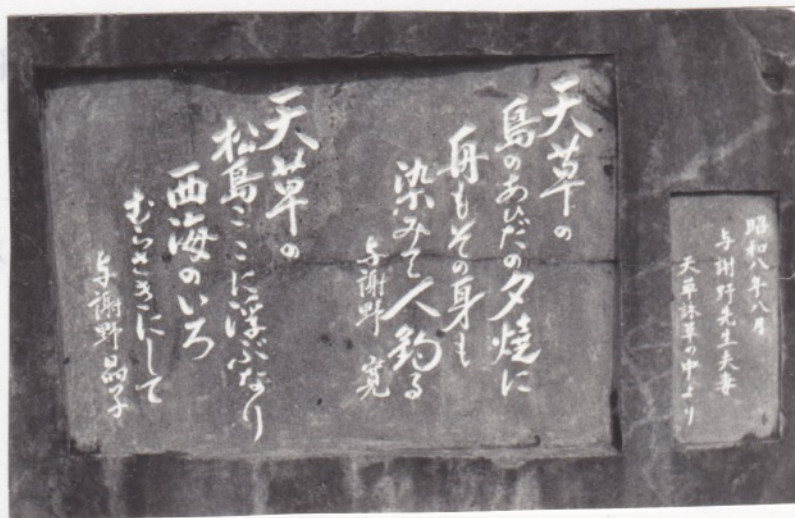
西 海 の い ろ

む ら さ き に し て

与 謝 野 晶 子

碑陰

昭和四十九年六月 建之
天草パ－ルセンター株式会社



與謝野寛・日田子歌碑

所在地 熊本県天草郡天草町 高浜 十三仏

與謝野夫妻歌碑

天草の
十三仏の
やまに
見る
海の入日と
むらさきの波

日田子

天草の
西高浜の
しろき磯
江蘇省より
秋風ぞ
ふく

碑陰

明治卅年夏新詩社の與謝野鉄幹北原白秋
木下杢太郎吉井勇平野万里 富岡に泊り
わらしがけ大江教会にカミエズルを尋た
越えて昭和七年秋鉄幹は日田子夫人を伴ない
簞でこの地を訪づれ数々の名句を残した私達
は優れた歌人を偲ぶために有志相計りゆかりの
地にこの碑を建てることにした

昭和四十一年秋 天草観光協会



與謝野寛・晶子歌碑

所在地 熊本県天草市天草町 高浜 十三佛

与謝野夫妻歌碑

(この横書きの下に 次の歌が縦書きで書かれている)

鉄 幹
天 草 の
十 三 仏 の
や ま に
見 る

海 の 入 日 と
む ら さ き
の 波

晶 子
天 草 の
西 高 浜 の
し ろ き 磯

江 蘇 省 より
秋 風 ぞ
ふ く

碑陰

明治四十年夏新詩社の与謝野鉄幹北原白秋
木下杢太郎吉井勇平野万里富岡に泊り
わらじがけ大江教会にガルニエ・アテルさんを尋ねた
越えて昭和七年秋鉄幹は晶子夫人を伴ない
簞でこの地を訪づれ数々の名句を残した私達
は優れた歌人を偲ぶために有志相計りゆかりの
地にこの碑を建てることにした

昭和四十一年秋 天草観光協会



興協興

歌碑

（二）

天草



明治四十年夏新詩社の与謝野鉄幹北原白秋
木下李太郎吉井勇平野万里富岡洵り
わらじがけ大江教会にカルニエ・パテルを尋ねた
越えて昭和七年秋鉄幹は晶子夫人を伴ない
筆でこの地を訪れ数々の名句を残した私達
は優れた歌人を偲ぶために有志相計りゆかりの
地にこの碑を建てることにした
昭和四十一年秋 天草町観光協会

與謝野寛・晶子歌碑

所在地 鹿児島県薩摩郡宮之城町虎居 轟の瀬公園内

さかしまに

落ちつと見れば

はがらかに

轟の早瀬

わが船ずる

寛

轟きの瀬は

川の火ぞ

少年は

つふことなりて

磯に遊ぶ

晶子

碑陰

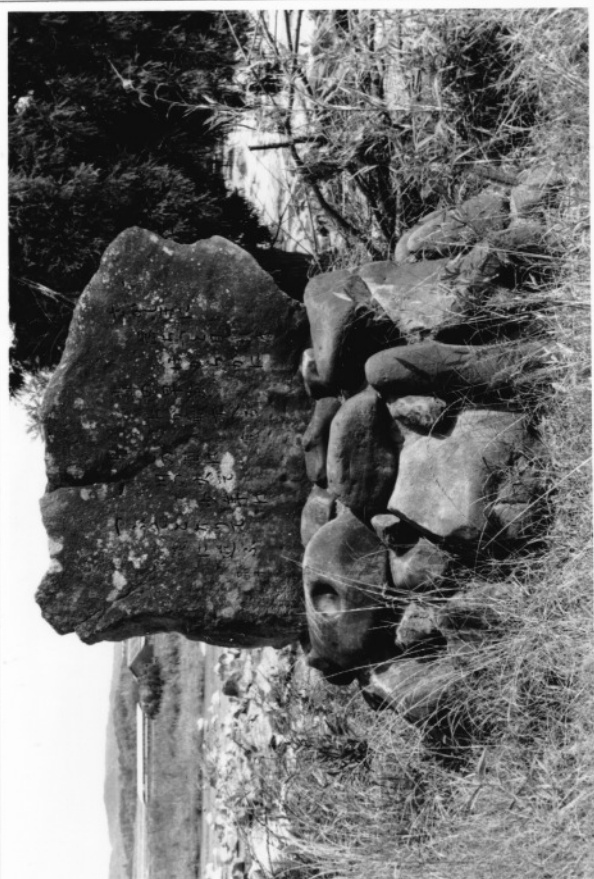
昭和四年七月二十九日

与謝野夫妻この地に遊び

これを詠む

昭和十二年三月吉日建立

宮之城町観光協会



與謝野寛・晶子歌碑

所在地 鹿児島県薩摩郡さつま町虎居 轟の瀬公園内

さかしまに

落ちつと見れば

ほがらかに

轟の早瀬

わが船すべる

寛

轟きの瀬は

川の火ぞ

少年は

つぶてとなりて

燄に遊ぶ

晶子

碑陰

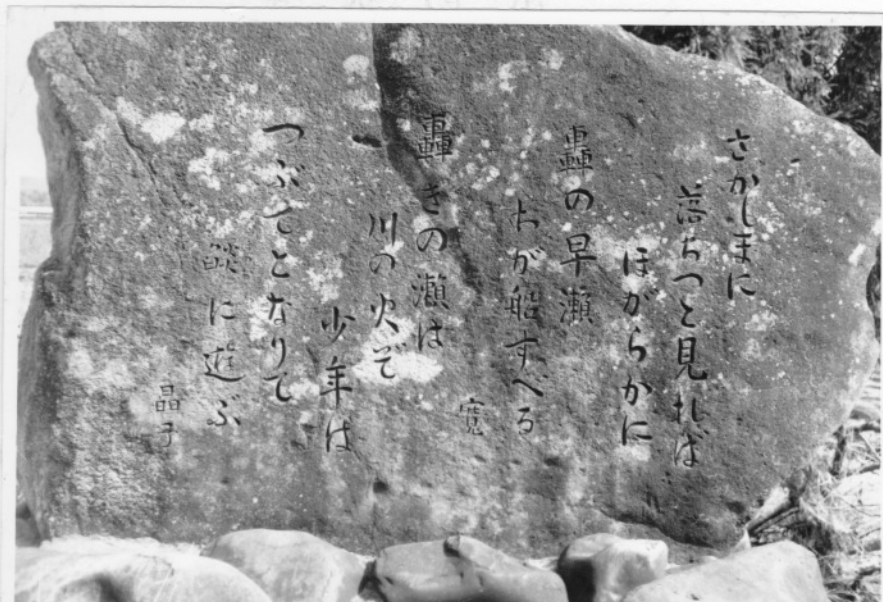
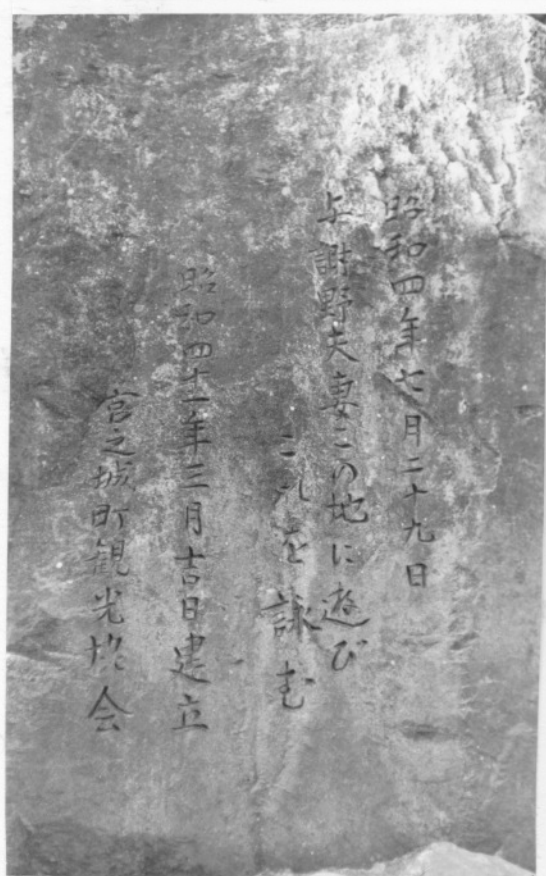
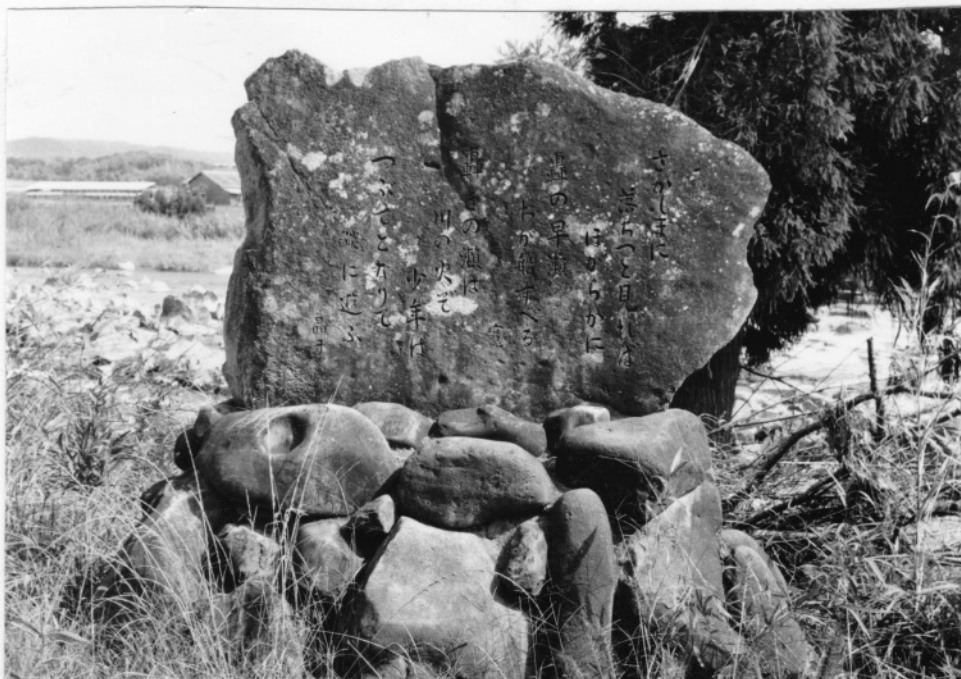
昭和四年七月二十九日

与謝野夫妻この地に遊び

これを詠む

昭和四十一年三月吉日建立

宮之城町観光協会



與謝野晶子歌碑

所在地 鹿児島県始良郡牧園町霧島高原園休養地 保養センター 桜の丘

牧園へ

碑陰

太鼓踊を見に

昭和五年三月建立

来よと

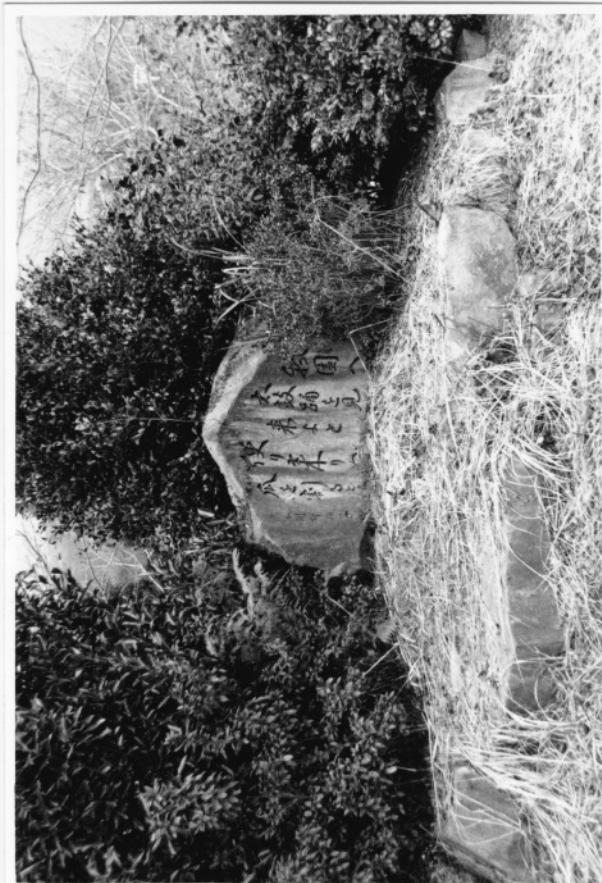
大霧島観光協会

会長 松下久敬

便り来りぬ

瓜を割るとき

与謝野晶子



與謝野晶子歌碑

所在地 鹿児島県霧島市牧園町 霧島高原国民保養地 保養センター近く 桜の丘

牧園へ

太鼓踊を見に

来よと

便り来りぬ

瓜を割るとき

与謝野晶子

碑陰

昭和五十年二月建立

大霧島観光協会

会長 松下久敬

新燃岳の風景

新燃岳の風景 1974年10月撮影 奥平町 奥平町

→新燃岳



與謝野寛・晶子歌碑

所在地 鹿児島県姶良郡加治木町朝日町 性心寺(寺名) 堺外の角

與謝野

鐵幹 晶子

歌碑

碑陰

老の身の相見て

うれし

をさなくて

加治木の寺に

うゑしたふの木

寛

加治木なる五つの

峯のなみかたの

女めくこそ

あはれなりけれ

晶子

加治木へは来るにはあらず帰るなり父と住みける思出のため
と與謝野鐵幹が詠んだのは昭和四年の八月四十数年ぶりに加治木を
訪れた時のことであつた鐵幹は明治四年九才の時父礼殿に従つて加治木
の説教所現在の性應寺に來住して翌年の秋まで暮らす歌の中の來
るにあらず帰るなりというまは性應寺で過した日々への断ちがたい
追憶と加治木へのひたむきな懐郷の念をこめてその時の來訪をなつかし
き人あるがため山をなぞりわが父の名を知る人に逢ふことは兄弟のご
とくなつかしきかなと詠しているまゝ加治木山河への愛着の深さが
しのばれる彼の感動が更に高揚したのは予が十才とき寺を去る數日前附
近の山を移植したるたふの一種の若木長一尺ばかりなりしが今に存
して繁茂するを見た時であつた

わが手もて植ゑし一尺のたふの木も年経て訪へば三丈の幹
老の身の相見て懐しをさなくて加治木の寺に植ゑしたふの木
とその瞬間の感動を詠じた夫鐵幹の心の波動に今はせまきと妻の晶子も
加治木なる五つの峰の波形の女めくこそあはれなりけれ
と詠している

鐵幹晶子と加治木とがこのよう深い因縁に結ばれていることは郷土加
治木の誇るべき歴史的な事実であるが移りゆく時の厚みにべだてられて
知る人も尠ない現状に鑑み今日石文を建てそのことを刻み加治木の
文化振興の一助とするために町内外在住の有志二百六十余名から寄せ
られた浄財を基にこの歌碑を建設した

昭和五十七年四月

發起人

設計 法元六郎
揮毫 町田實秀
施工 桃木野翹

三千五名列記(省略)

左側面

與謝野鐵幹の歌

わが父の名を知る人に逢ふことは
兄弟のごとなつかしきかな

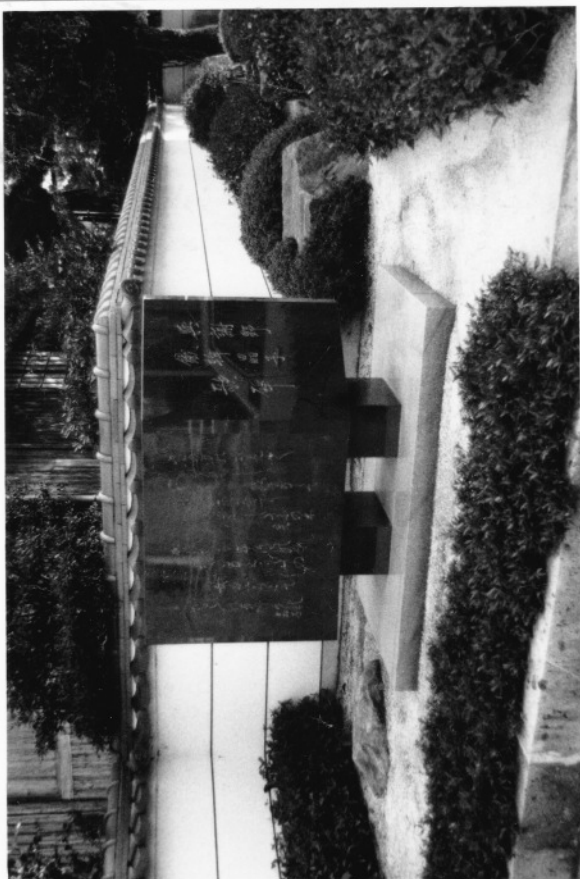
わが父が加治木に住みし六十ちにも
年ちかづきて加治木には來ぬ

をさなくて紙鐵砲をつくりたる
金竹 いまは杖にきらまし

見上げつつ夢かと思ふをさなくて
加治木の寺に植ゑしたふの木

與謝野晶子の歌

鹿児島へ夕日を追ひて行くやうに
車やるなり加治木の峠



與謝野寛・晶子歌碑

所在地 鹿児島県始良郡加治木町朝日町 性応寺（しょうおうじ） 塀外の角

與 謝 野

鐵 幹 晶 子

歌 碑

老の身の相見て

うれし

をさなくて

加治木の寺に

うゑしたふの木

寛

加治木なる五つの

峯のなみかたの

女めくこそ

あはれなりけれ

晶子

（碑陰及び左側面は次の頁にあり）

與謝野寛・晶子歌碑

所在地 鹿児島県始良郡加治木町朝日町 性応寺（しょうおうじ） 塀外の角

與 謝 野

鐵 幹 晶 子

歌 碑

老の身の相見て

うれし

をさなくて

加治木の寺に

うゑしたふの木

寛

加治木なる五つの

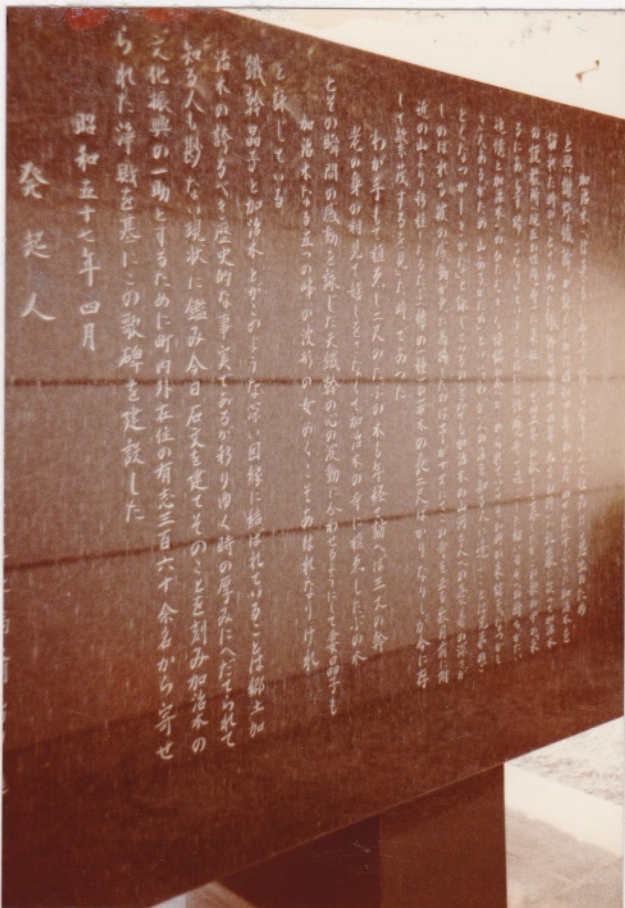
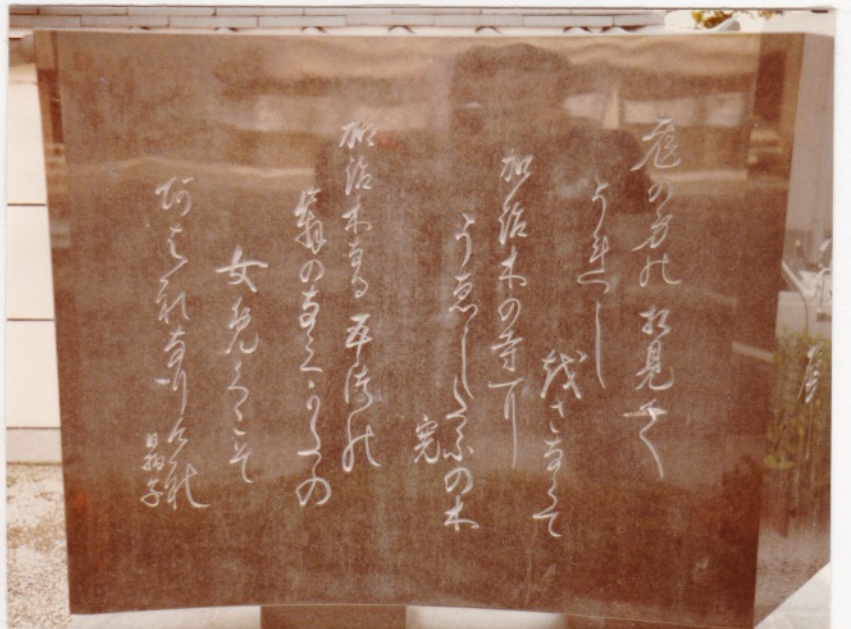
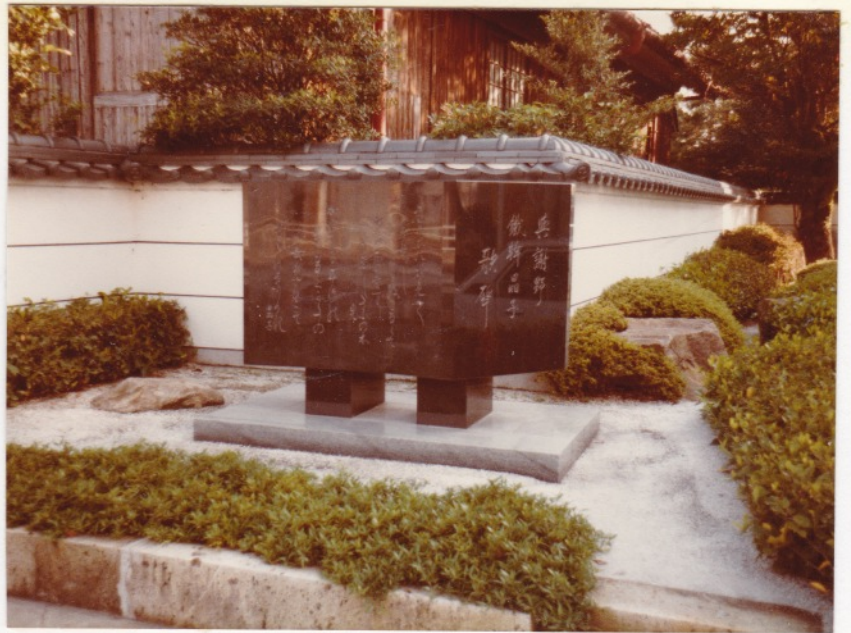
峯のなみかたの

女めくこそ

あはれなりけれ

晶子

（碑陰及び左側面は次の頁にあり）



碑陰

加治木へは来るにはあらず帰るなり父と住みける思出のため
と與謝野鐵幹が詠んだのは昭和四年の八月四十数年ぶりに加治木を
訪れた時のことであつた鐵幹は明治十四年九才の時父礼巖に従つて加治木
の説教所(現在の性應寺)に来住ここで翌年の秋まで暮したがこの歌の中の「来
るにあらず帰るなり」とうことばには性應寺で過ごした幼い日々への断ちがたい
追憶と加治木へのひたむきな懷郷の念がこめられているその時の來訪を「なつかし
き人あるがため山あるがため」といい「わが父の名を知る人に逢ふことは兄弟のご
とくなつかしきかな」と詠じているのをみても加治木の山河と人への愛着の深さが
しのばれる彼の感動が更に高揚したのは予が十才にてこの寺を去る数月前に附
近の山より移植したるたぶ(樟の一種)の若木の長二尺ばかりなりしが今に存
して繁茂するを見た時であつた

わが手もて植ゑし二尺のたぶの木も年経て訪へば三丈の幹
老の身の相見て嬉しをさなくて加治木の寺に植ゑしたぶの木
とその瞬間の感動を詠じた夫鐵幹の心の波動に合わせるようにして妻の晶子も
加治木なる五つの峰の波形の女めくこそあはれなりけれ
と詠じている

鐵幹晶子と加治木とがこのような深い因縁に結ばれていることは郷土加
治木の誇るべき歴史的な事実であるが移りゆく時の厚みにへだてられて
知る人も尠ない現状に鑑み今日石文を建てそのことを刻み加治木の
文化振興の一助とするために町内外在住の有志三百六十余名から寄せ
られた浄財を基にこの歌碑を建設した

昭和五十七年四月 発起人

設計 法元 六郎

揮毫 町田 實秀 三十五名列記(略)

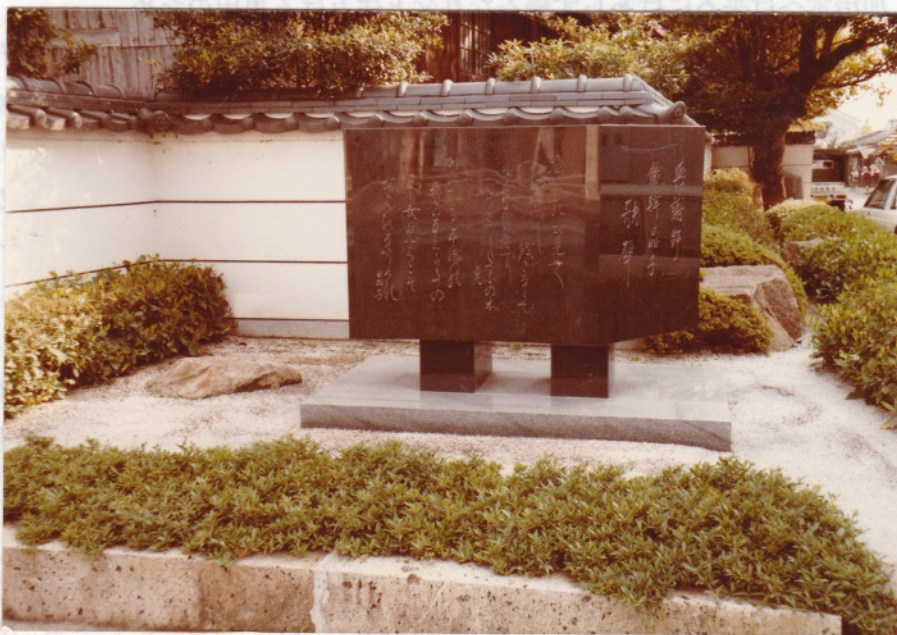
施工 桃木野石材店

左側面 與謝野鐵幹の歌／

わが父の名を知る人に逢ふことは／兄弟のごとなつかしきかな
わが父が加治木に住みし六十ちにも／年ちかづきて加治木には来ぬ
をさなくて紙鐵砲をつくりたる／金竹いまは杖にきらまし
見上げつつ夢かとぞ思ふをさなくて／加治木の寺に植ゑしたぶの木

與謝野晶子の歌

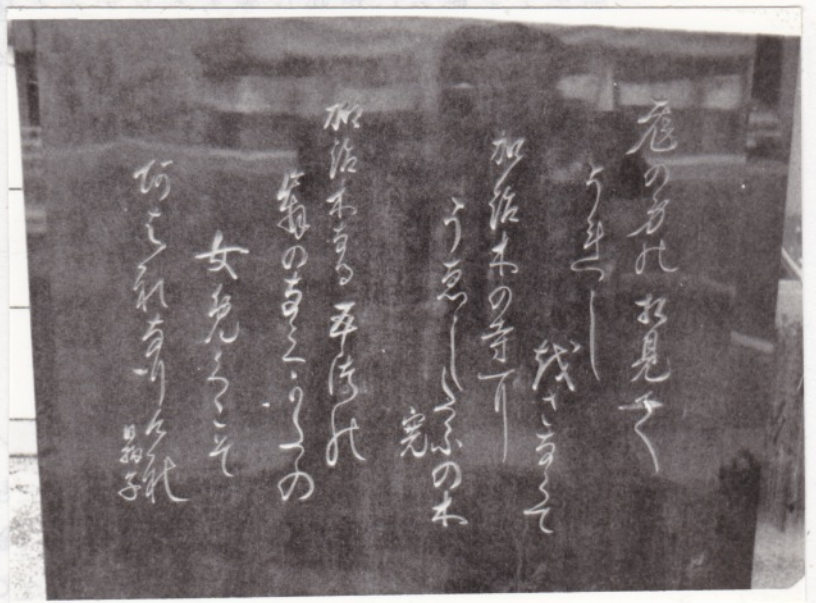
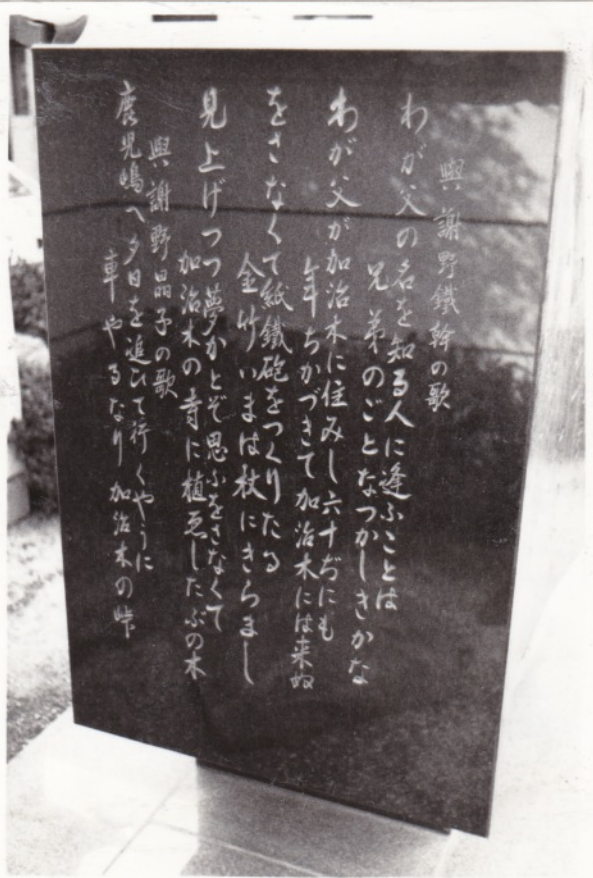
鹿兒嶋へ夕日を追ひて行くやうに／車やるなり加治木の峠



木部正の墓

木部正の墓

木部正の墓



木部正の墓

木部正の墓

碑陰

加治木へは来るにはあらず帰るなり父と住みける思出のため
と與謝野鐵幹が詠んだのは昭和四年の八月四十数年ぶりに加治木を
訪れた時のことであつた鐵幹は明治十四年九才の時父礼巖に従つて加治木
の説教所(現在の性應寺)に来住ここで翌年の秋まで暮したがこの歌の中の「来
るにあらず帰るなり」とうことばには性應寺で過ごした幼い日々への断ちがたい
追憶と加治木へのひたむきな懷郷の念がこめられているその時の来訪を「なつかし
き人あるがため山あるがため」といい「わが父の名を知る人に逢ふことは兄弟のご
とくなつかしきかな」と詠じているのをみても加治木の山河と人への愛着の深さが
しのばれる彼の感動が更に高揚したのは予が十才にてこの寺を去る数月前に附
近の山より移植したるたぶ(樟の一種)の若木の長二尺ばかりなりしが今に存
して繁茂するを見た時であつた

わが手もて植ゑし二尺のたぶの木も年経て訪へば三丈の幹
老の身の相見て嬉しをさなくて加治木の寺に植ゑしたぶの木
とその瞬間の感動を詠じた夫鐵幹の心の波動に合わせるようにして妻の晶子も
加治木なる五つの峰の波形の女めくこそあはれなりけれ
と詠じている

鐵幹晶子と加治木とがこのような深い因縁に結ばれていることは郷土加
治木の誇るべき歴史的な事実であるが移りゆく時の厚みにへだてられて
知る人も尠ない現状に鑑み今日石文を建てそのことを刻み加治木の
文化振興の一助とするために町内外在住の有志三百六十余名から寄せ
られた浄財を基にこの歌碑を建設した

昭和五十七年四月 発起人

設計 法元 六郎

揮毫 町田 實秀 三十五名列記(略)

施工 桃木野石材店

左側面 與謝野鐵幹の歌／

わが父の名を知る人に逢ふことは／兄弟のごとなつかしきかな
わが父が加治木に住みし六十ちにも／年ちかづきて加治木には来ぬ
をさなくて紙鐵砲をつくりたる／金竹いまは杖にきらまし
見上げつつ夢かとぞ思ふをさなくて／加治木の寺に植ゑしたぶの木

與謝野晶子の歌

鹿兒嶋へ夕日を追ひて行くやうに／車やるなり加治木の峠

吉井 勇歌碑

所在地 北海道札幌市中央区大通公園西側 北海道銀行前の公園

札幌の木ライラック

裏面も同じ歌と文章
が書かれている

家ごとに

リラの花咲き札幌の

人は楽しく生きてあるらし

吉井 勇



北国の詩情豊かな札幌は、ライラック(リラ)がよく似合う街です。昭和三十四年から大通公園を中心に札幌の初夏を飾るにふさわしい入さつぽろライラックまつりVが開かれていますし、札幌の木に選ばれたのはその翌年のことでした。すぐれた歌人の吉井勇氏が昭和三十一年にこの地を訪れ、その旅の記念として「北遊小吟」五首を残しましたが、ここに刻んだ一首にはライラックを愛する札幌市民の気持が暖かく詠まれて

います。ライラックを行花とし、ことし三十周年を迎えた北海道銀行のご厚志によりこの歌碑の建立をみましたことを、市民とともに心から喜ぶものです。

碑名の揮毫 板垣武四(札幌市長)
デザイン 小谷博貞(美術家)

昭和五十六年五月九日
札幌市

吉井勇歌碑

所在地 北海道札幌市中央区大通公園西4丁目 北海道銀行前の公園内

札幌の木ライラック (横書き)

★

(★の所に縦書きで 次の歌が書かれており 裏面も同じ歌と文章が書かれている)

家ごとに

リラの花咲き札幌の

人は楽しく生きてあるらし

吉井勇

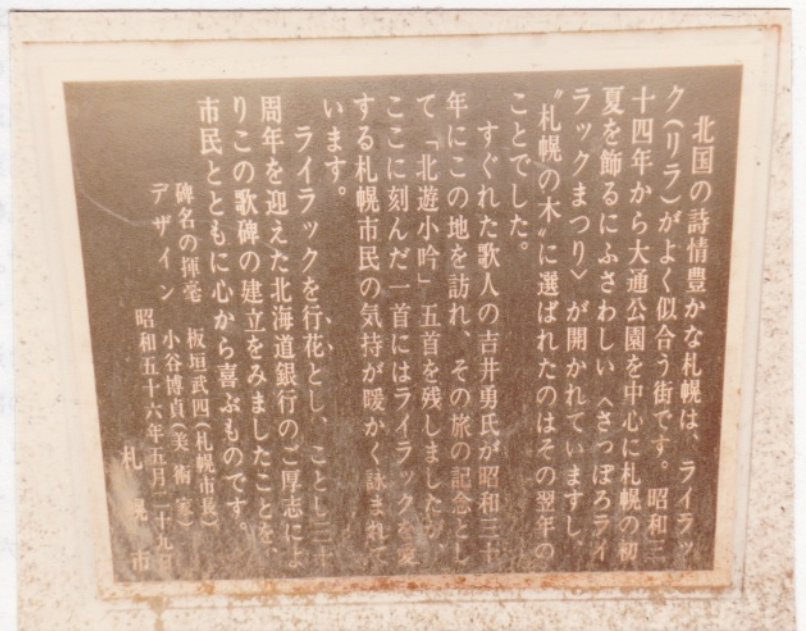
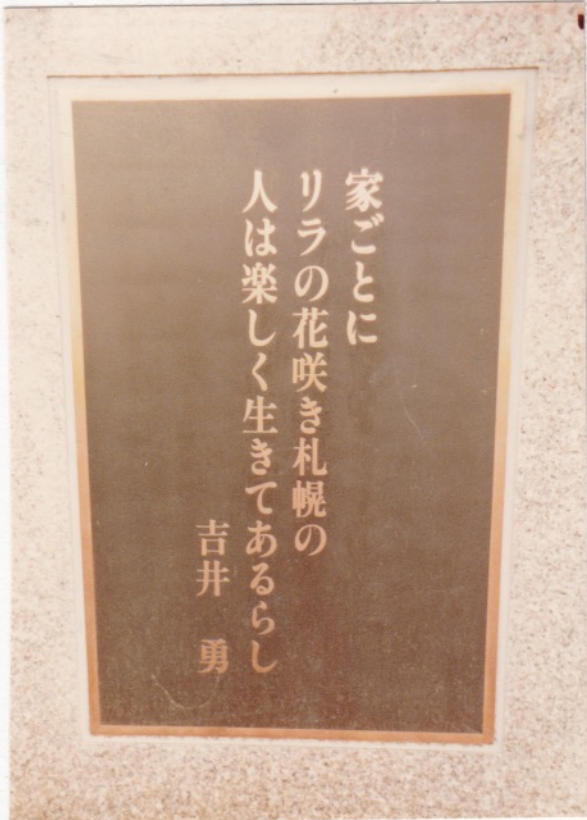
北国の詩情豊かな札幌は、ライラック(リラ)がよく似合う街です。昭和三十四年から大通公園を中心に札幌の初夏を飾るにふさわしいくさっぽろライラックまつりが開かれていますし、“札幌の木”に選ばれたのはその翌年のことでした。

すぐれた歌人の吉井勇氏が昭和三十年にこの地を訪れ、その旅の記念として「北遊小吟」五首を残しましたが、ここに刻んだ一首にはライラックを愛する札幌市民の気持ちが暖かく詠まれています。

ライラックを行花とし、ことし三十周年を迎えた北海道銀行のご厚志によりこの歌碑の建立をみましたことを、市民とともに心から喜ぶものです。／

碑名の揮毫 板垣武四(札幌市長)／デザイン 小谷博貞(美術家)／

昭和五十六年五月二十九日／札幌市



吉井 勇歌碑

所在地 群馬県利根郡水上町 水上温泉 湯原橋への途中

水上偶感

あなをかし

旅にて得たる

寂し
さる

遊びのはて

の
寂しさに
似る

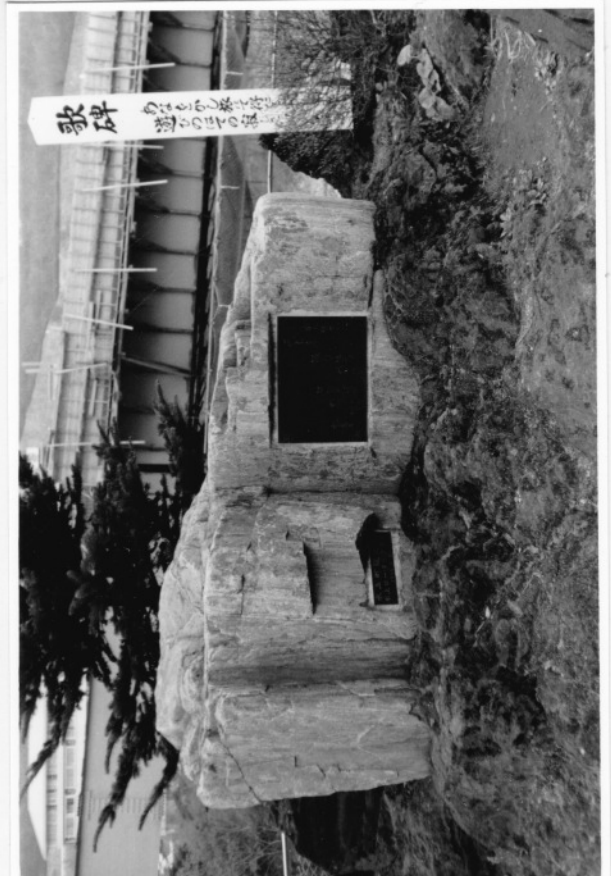
勇 老 逸

碑陰

文字なし

水上町 観光課

水上ロ タリクラブ
1966.6.2



吉井勇歌碑

所在地 群馬県利根郡みなかみ町水上温泉 湯原橋への途中

水上偶感

あなをかし

旅にて得たる

寂し

さも

遊びのはて

の

寂しさに

似る

勇老逸

碑陰

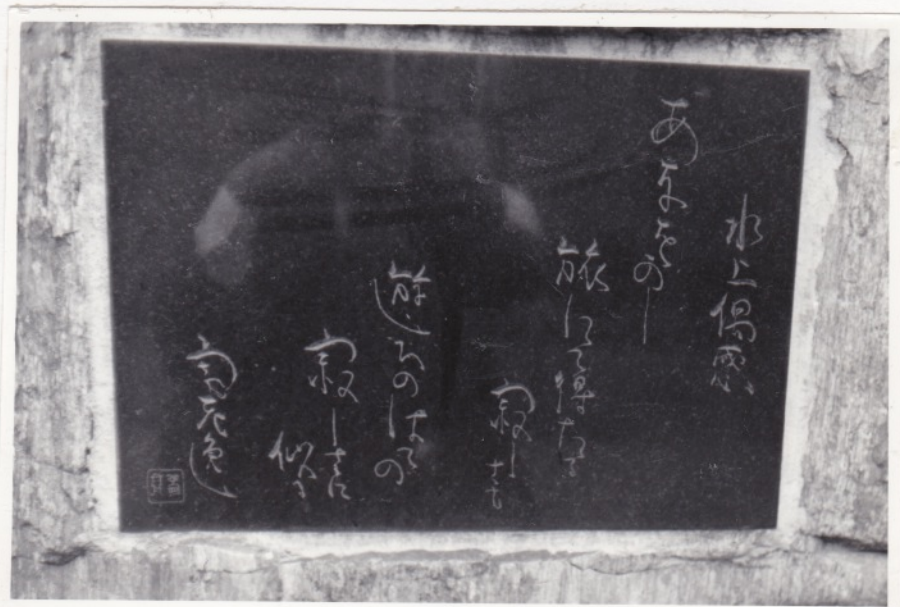
文字なし

(少し離れて横書き)

水上町 観光課

水上ロータリクラブ

1996・6・2



吉井 勇歌碑

所在地 東京都大田区池上二〇五 本行寺門前 墓地 溝口家墓

(溝口健二の墓)

溝口家之墓

左側面

常光院殿映徳日健居士
昭和三年八月二十四日 溝口健二

裏面

昭和三年八月
溝口 實建之

(吉井勇の歌)

悼 歌

碑陰

碑 藝のみち映画の道か

横書きで左欄に

念

きま旬報ベネズエラ三回巻

記

端的に黄泉にかよふと

溝口健二

二

大正五年...

健

おもひかけきや

以下二十件記載

口

横書きで右欄に

溝

昭和丁酉仲夏

映画祭監督賞受賞

洛東歌隠 吉井 勇

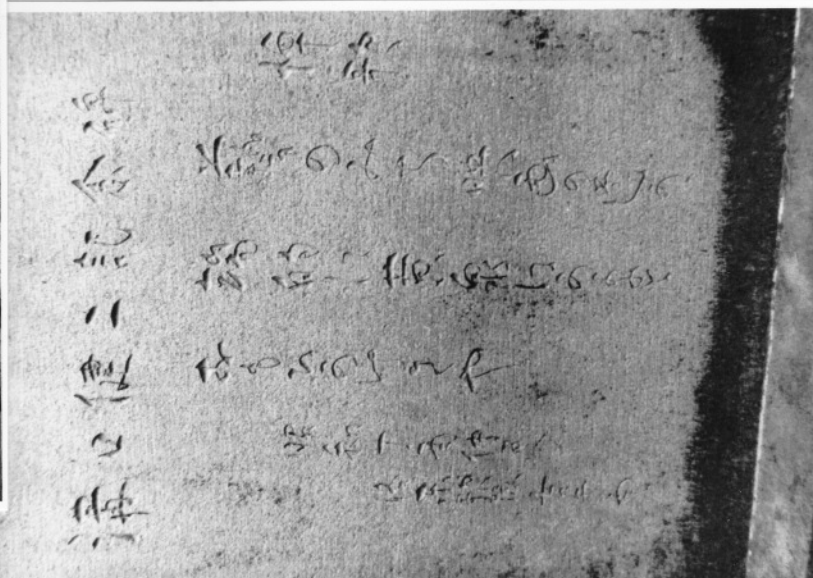
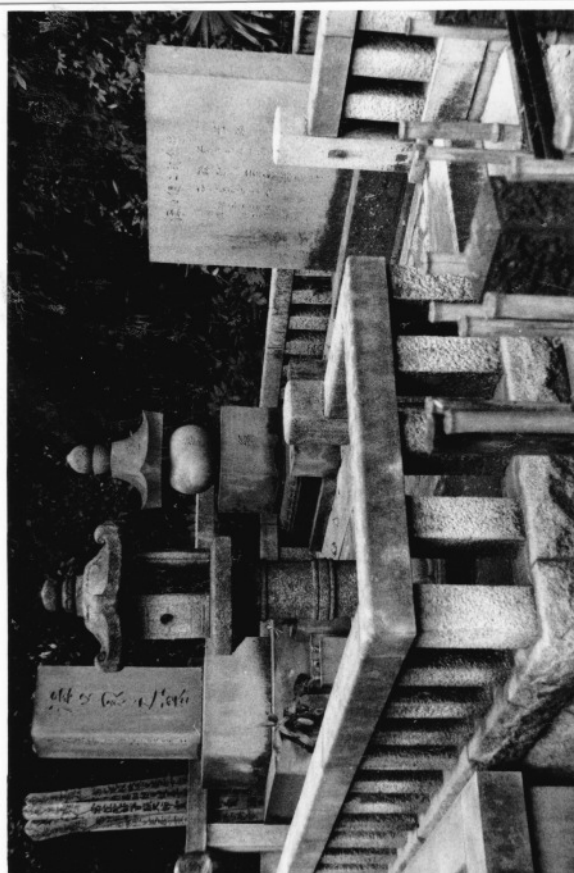
及び映画上での略歴

が記載されている

和丁酉＝昭和三年

昭和三年八月

子弟二回溝口實建之



吉井勇歌碑

所在地 東京都大田区池上 2-10-5 本行寺門前 墓地 溝口家墓域

(溝口健二の墓)

溝口家之墓

左側面

常光院殿映徳日健居士

昭和三十一年八月二十四日 溝口健二

裏面 昭和三十二年八月

溝口 寶建之

(吉井勇の歌)

溝口健二記念碑 (横書き)

(この下に次の悼歌が縦書きで書かれている)

悼歌

藝のみち映画の道か

端的に黄泉にかよふと

おもひかけきや

昭和丁酉仲夏

洛東歌隠 吉井勇

(注) 昭和丁酉=昭和 32 年

碑陰

横書きで左欄に

キネマ旬報ベストテン三十回記念

溝口健二

大正十五年…

以下 二十件記載

横書きで右欄に

映画祭監督賞受賞

及び映画上での略歴

が記載されている

昭和卅二年八月 (縦書き)

子弟一同並溝口嶺建之

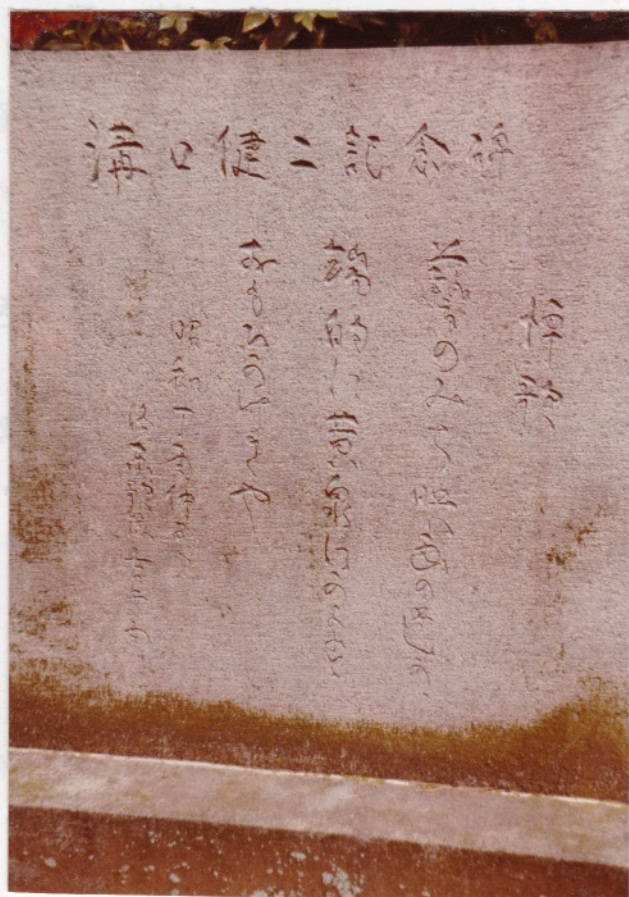
吉共良郷



(この石の裏に書ける墓主の姓名の石の二つ)



(右側) 凡八平二廿四日
立敷門前並同一系子



吉井 勇歌碑

所在地 新潟県佐渡郡真野町 真野公園内

勇

碑陰

昭和三十六年七月建之

なま

旅ひと

われも

真野に

来て

佐渡の

みかと

の

御硯に

泣く



吉井 勇 歌 碑

所在地 新潟県佐渡市真野町 真野公園内

勇

こころ

なき

旅ひと

われも

真野に

来て

佐渡の

みかと

の

御 硯 に

泣 く

碑陰

昭和三十六年七月建之

略歴

吉井 勇 明治 19 年 10 月 8 日 東京芝区高輪町に生まれる（伯爵吉井幸蔵次男）
早大政経科中退 昭和 35 年 11 月 19 日歿す 享年 74 歳 法名 大叡院友雲仙生夢庵
大居士 墓は東京都港区南青山 青山霊園 1 種－イ 6 号 4 側 4 番にある

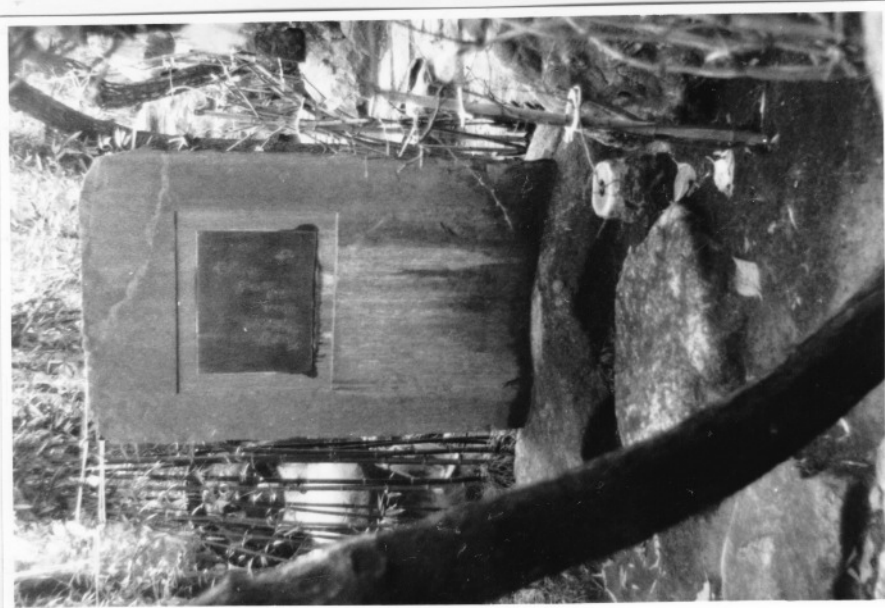


吉井 勇歌碑

所在地 新潟県新潟市川端町五三宅 料亭「生粋」別館庭内

雪降らば
ゆかむと
君に
ちかひ
たる
その新潟
に
雪降る
と
いふ

勇
碑陰
文字なし



吉井勇歌碑

所在地 新潟県新潟市川端町 5-37 料亭「生粹」別館庭内

勇

雪降らは

ゆかむと

君に

ちかひ

たる

その新潟

に

雪降る

と

いふ

碑陰

文字なし

吉 興 街



吉 興

